

## 【資料4】在学中の学業の成果に関する奈良女子大学卒業生・修了生への調査結果

平成28年7月 奈良女子大学 評価企画室  
学長調査戦略室

### 調査概要

実施時期：平成27年6月～7月

調査対象：平成17年3月～27年3月までに本学を卒業・修了した一般社団法人佐保会  
(奈良女子大学同窓会) 会員4040名

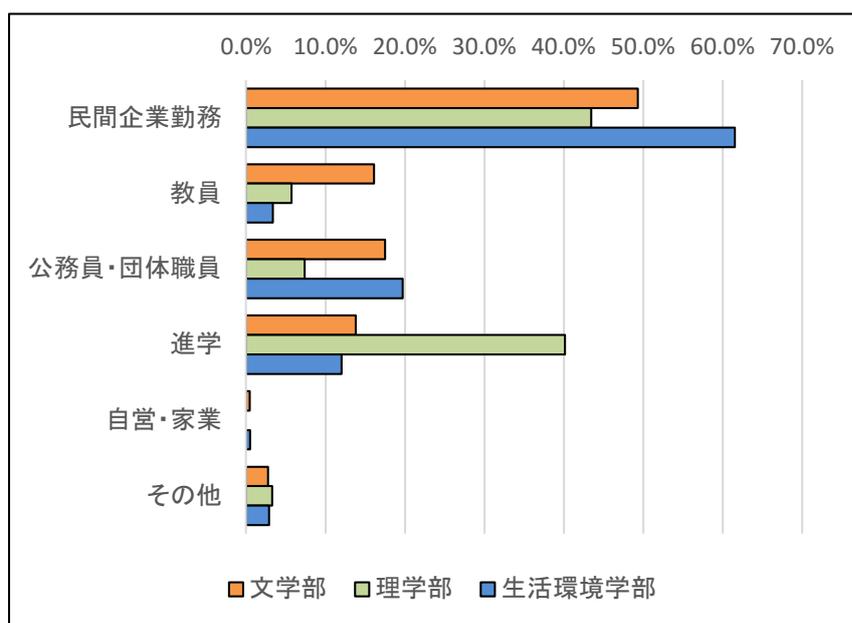
回答者数：712名（文学部218、理学部122、生活環境学部208、博士課程前期140、  
博士後期課程21）

### 進路選択

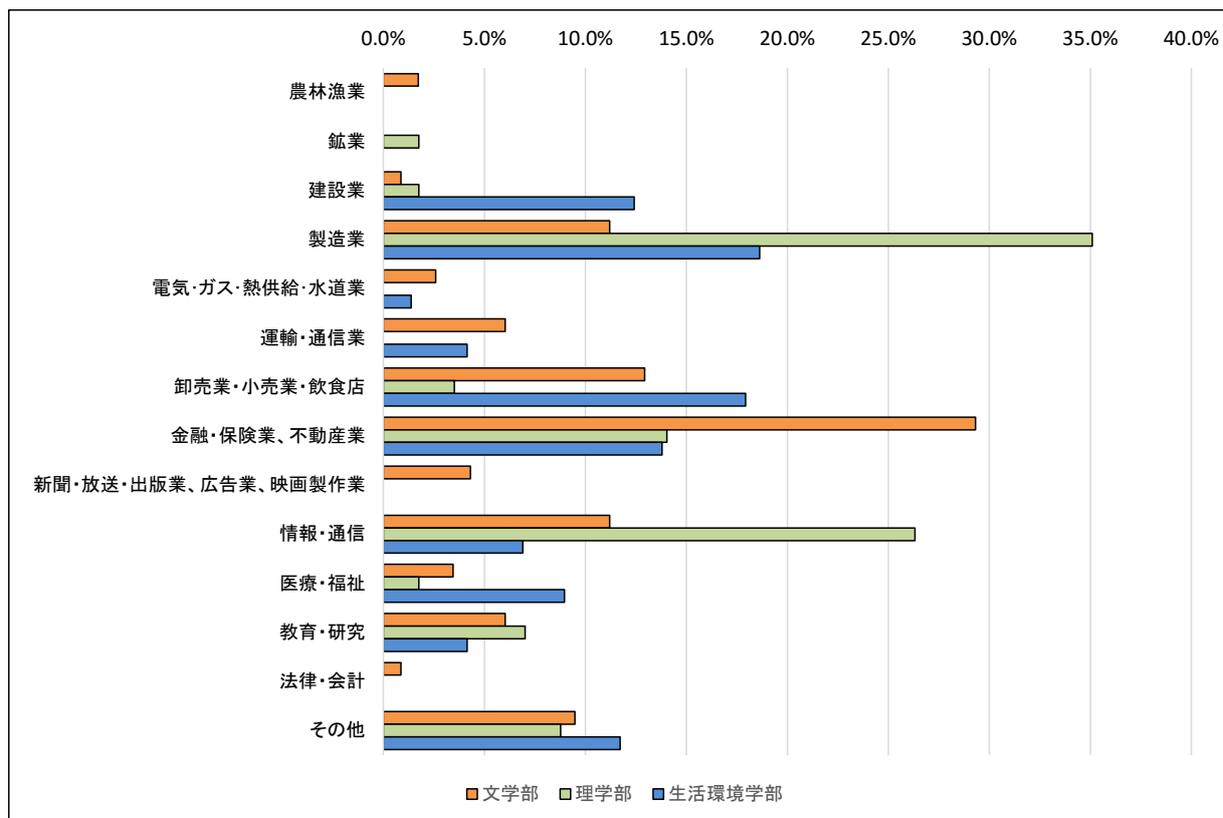
まず、学部生の進路選択についてです。卒業直後の進路（図1）としては、全学的に民間企業に就職するものが多かったのですが、文学部では教員・公務員が多いのに対し、理学部では進学率が非常に高くなりました。生活環境学部では、公務員が最も多かったものの、他の項目との大きな差はなく、進路選択を幅広くおこなっていることがわかりました。

また、業種内訳（図2）では文学部が金融・保険業、不動産業、理学部は製造業、情報・通信、生活環境学部では上記と同様幅広い業種で就業していることがわかり、学部の個性が反映されていました。

（図1）卒業直後の進路

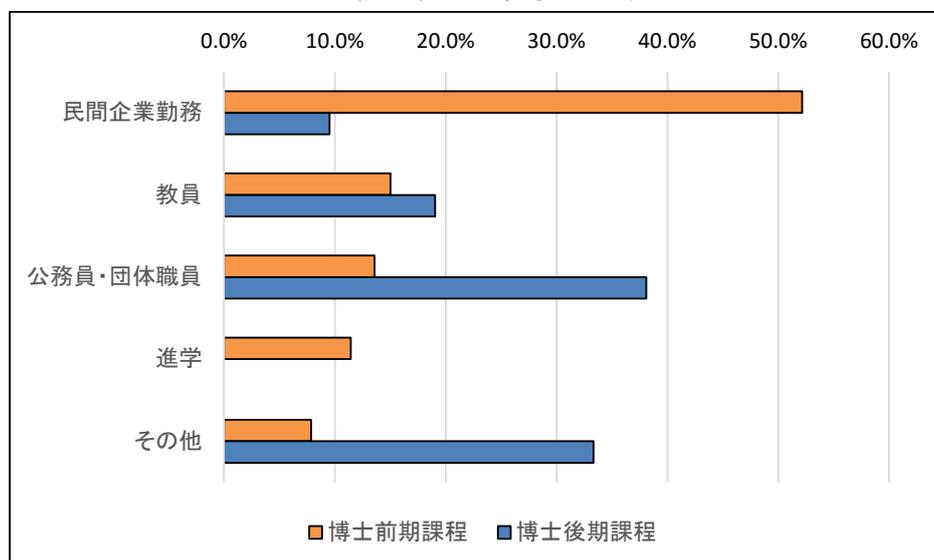


(図2) 卒業直後の進路 (業種)

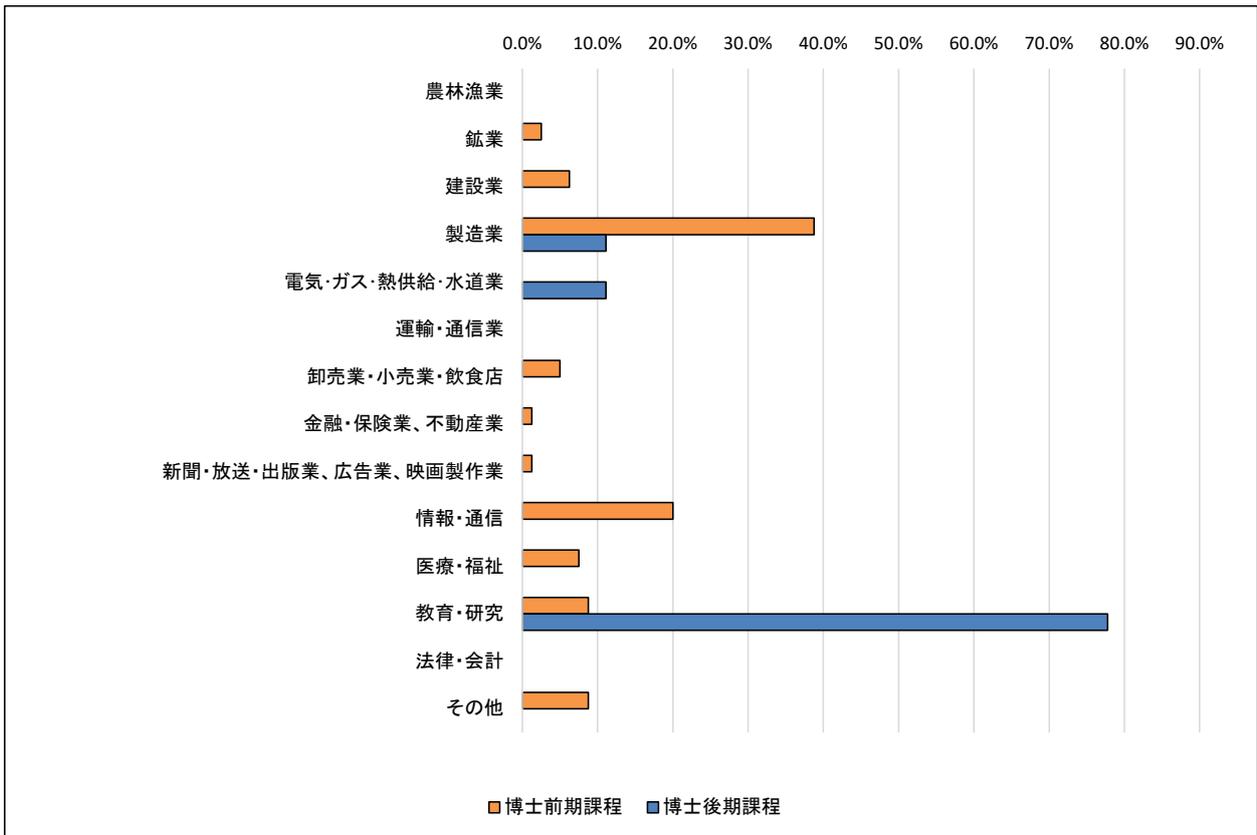


大学院についてしてみると、修了直後の進路について、博士前期課程では民間企業が、博士後期課程ではその他に「研究員」や「ポスドク」といった回答があり、博士後期課程が研究者養成の役割を果たしていることがわかりました。また、業種別に見ると、博士前期課程が製造業、後期課程が教育・研究といった業種の割合が高く、ここからも専門を活かした進路選択を行っているといえます。

(図3) 修了直後の進路



(図4) 修了直後の進路(業種)



卒業・修了直後の進路と現在の進路を比較すると、79.7%の人が卒業・修了から現在まで大きな進路変更はないことがわかりました(図5)。現在と卒業・修了直後の進路に変更があった人の中には、民間企業から専業主婦もしくは公務員・団体職員というものが多く、女性として多様なキャリアパスから自分に合うものを選択していると考えられます。

(図5) 卒業・修了直後の進路と現在の進路

		卒業・修了直後の進路							計
		民間企業	公務員・ 団体職員	自営・家業	教諭・保育士	進学・留学	専業主婦	その他※	
現在の 進路	民間企業	295 41.6%	3 0.4%		1 0.1%	22 3.1%		1 0.1%	322 45.4%
	公務員・ 団体職員	24 3.4%	102 14.4%	1 0.1%	1 0.1%	9 1.3%		5 0.7%	142 20.0%
	自営・家業	6 0.8%	1 0.1%	7 1.0%		2 0.3%	1 0.1%		17 2.4%
	教諭・保育士	5 0.7%	2 0.3%		61 8.6%	2 0.3%		1 0.1%	71 10.0%
	進学・留学	3 0.4%	2 0.3%		2 0.3%	78 11.0%			85 12.0%
	専業主婦	26 3.7%	2 0.3%		4 0.6%	3 0.4%	4 0.6%	1 0.1%	40 5.6%
	その他※	5 0.7%		1 0.1%	3 0.4%	5 0.7%		18 2.5%	32 4.5%
	計	364 51.3%	112 15.8%	9 1.3%	72 10.2%	121 17.1%	5 0.7%	26 3.7%	709 100.0%

※その他の内訳

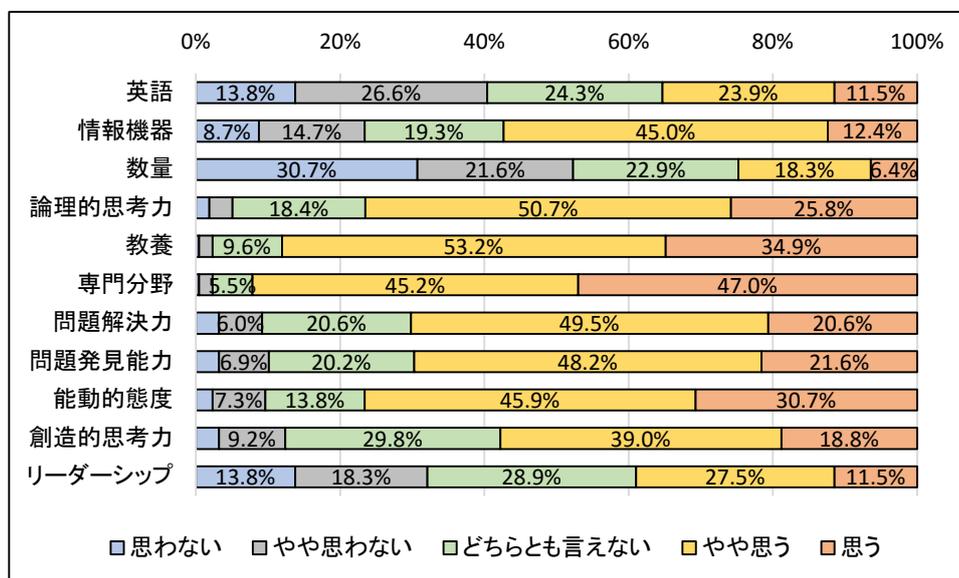
卒業生 フリーター、学童指導員、公務員試験受験中、無職、短大講師、大学講師、研究員等

修了生 博士研究員、大学助手、大学教員、アルバイト、ポスドク等

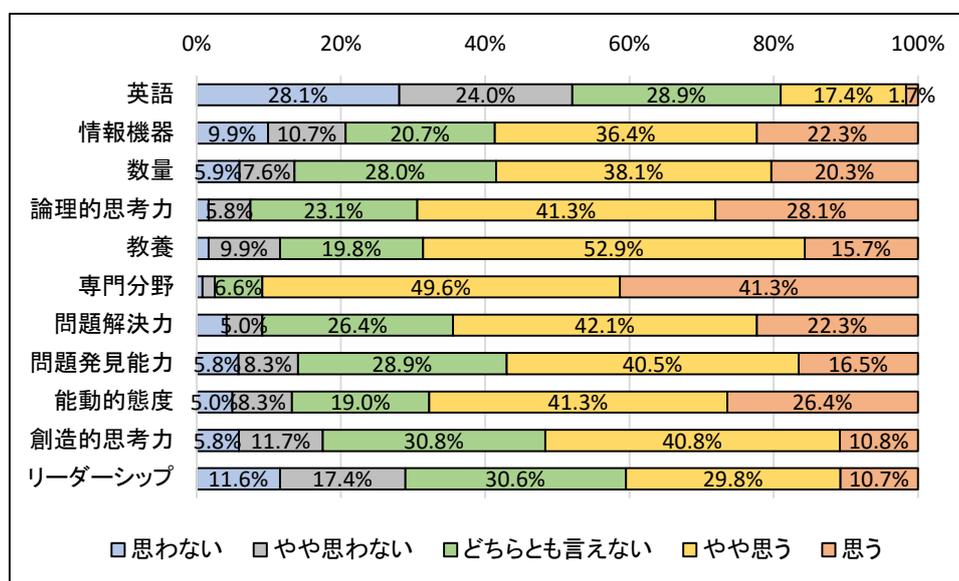
## 在学中の学業成果

在学中の学業成果に関して、学部と大学院、すべての内訳を示したものが図6から図10です。学部・大学院での比較は後述します。

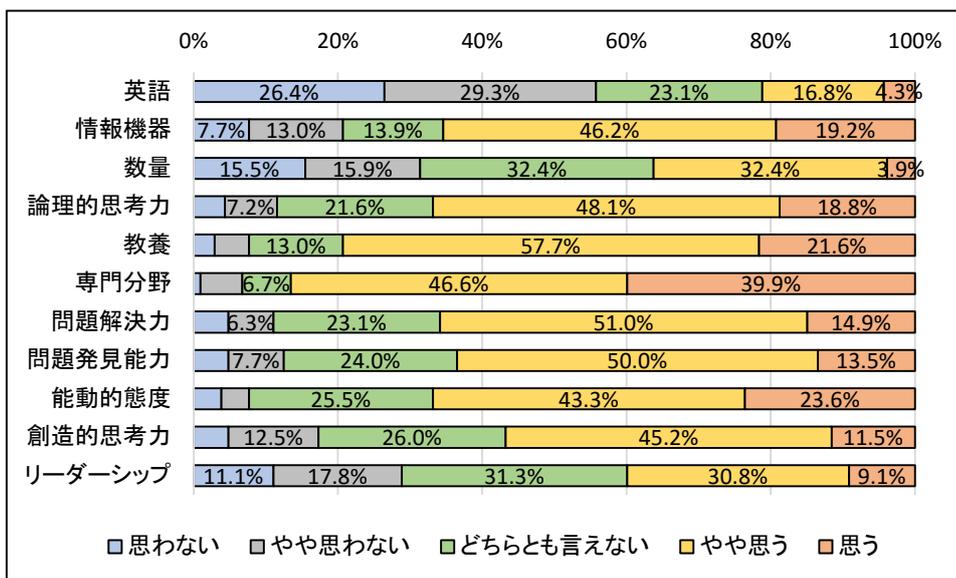
(図6) 在学中に身についた能力 (文学部)



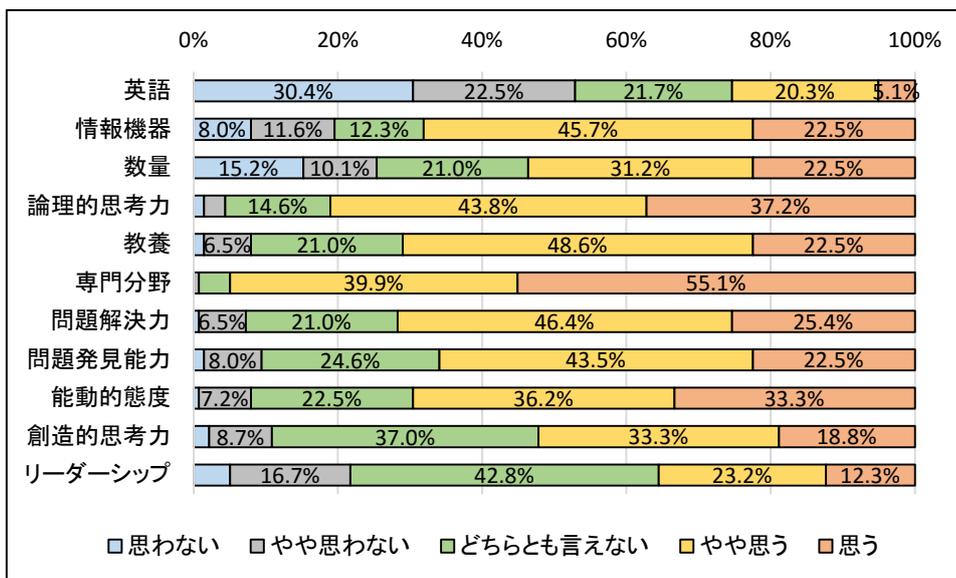
(図7) 在学中に身についた能力 (理学部)



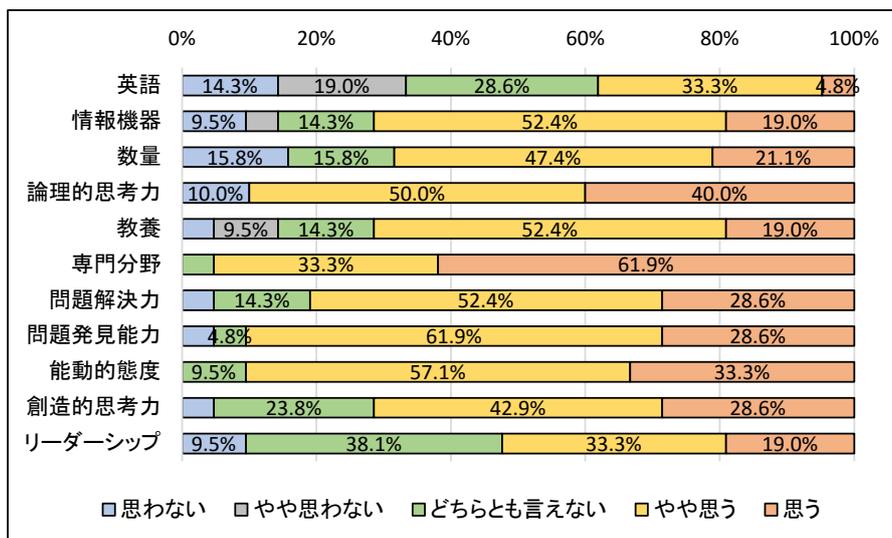
(図8) 在学中に身についた能力 (生活環境学部)



(図9) 在学中に身についた能力 (博士前期課程)

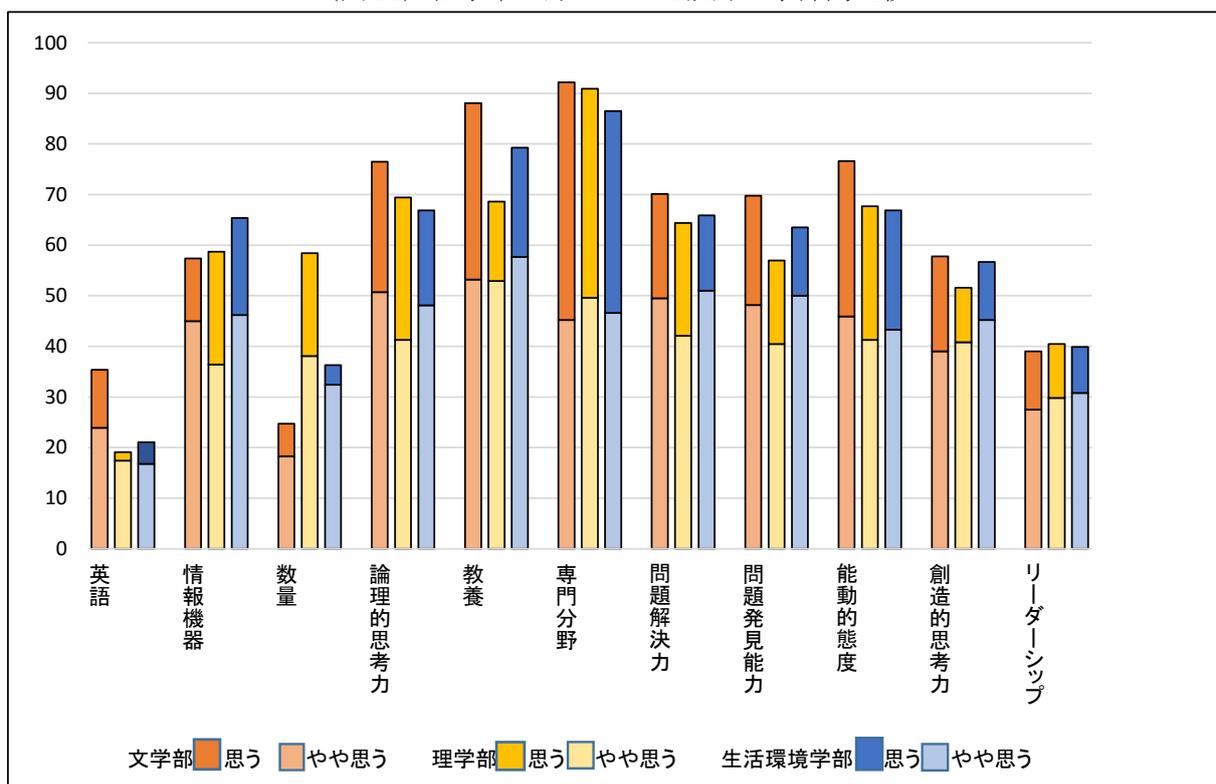


(図 10) 在学中に身についた能力 (博士後期課程)



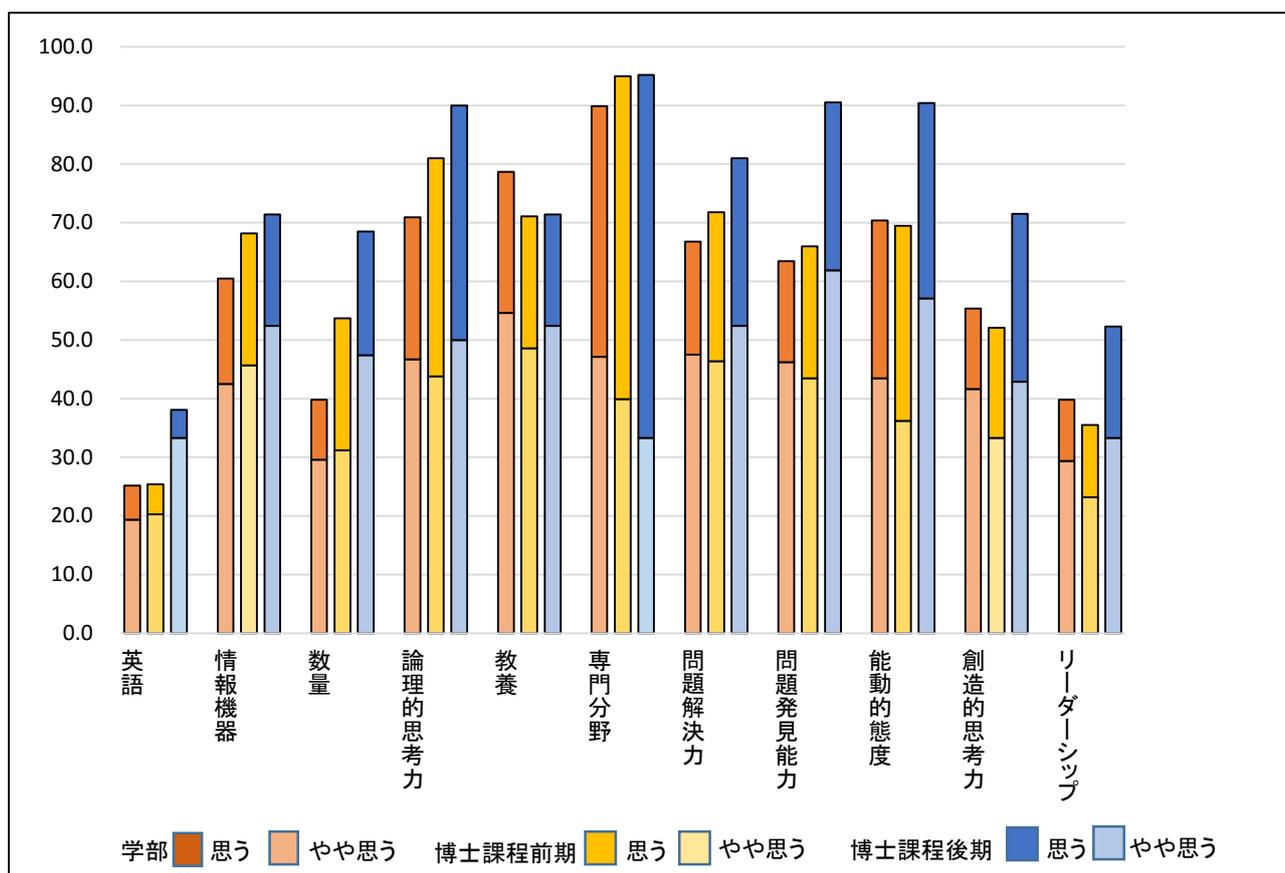
次に3学部の卒業生が在学中に身についたスキル・能力の各項目について、「思う」・「やや思う」を合計した割合を比較しました(図11)。専門分野や能動的態度、教養といった項目は一律に高い傾向がありますが、英語や数量では学部ごとの差がみられます。情報機器については、大学においてレポートを書く機会があることや、共通科目として情報処理入門などの情報教育に関する科目があることから、ばらつきが少ないと考えられます。

(図 11) 在学中に身についた能力の学部間比較



また、学部・博士課程前期・博士課程後期で同様の比較をおこなったところ、教養を除くほとんどの項目で、学部から博士前期課程、後期課程へと能力が身についていると感じていることがわかりました。

(図 12) 在学中に身についた能力の学部・博士課程前期・博士課程後期の比較



# 在学中の学業の成果に関する 奈良女子大学卒業生・修了生への調査

平成27年5月

奈良女子大学

副学長(企画・広報担当) 小路田 泰直

## ご記入上のお願い

- ・あなたご自身をご回答ください。
- ・ご記入は鉛筆または黒・青のボールペンでお願いします。
- ・設問【1】以外をあてはまる回答についている数字を○で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は、その数字を○で囲み、( )の中に具体的な内容をご記入ください。
- ・○は各質問ひとつずつ付していただくよう、お願いします。
- ・お答えになりにくい質問には無理にご回答いただかなくてもかまいません。
- ・ご回答は統計処理され、決して個人が特定できることのないよう配慮します。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封の返信用封筒に厳封のうえ（切手の貼付および差出人のご記入は不要です）、**7月3日（金）まで**にご返送いただきますようお願いいたします。
- ・調査に関するご質問は、下記連絡先までお問い合わせください。

※調査に関するお問い合わせ先

奈良女子大学総務・企画課 専門職員（塩瀬<sup>しおせ</sup>）  
評価広報係（川村）

TEL : 0742 (20) 3692、3220

FAX : 0742 (20) 3205

E-Mail : hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp

当調査に関するご意見や本学に対するご意見などございましたら、下記にご記入ください。

【1】あなたが卒業および修了された**奈良女子大学の学部・大学院**について、**全ての経歴**をご回答ください。

[学部]

学部 \_\_\_\_\_ 学科 \_\_\_\_\_ 専攻(コース) \_\_\_\_\_  
昭和・平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 入 学 \_\_\_\_\_ 昭和・平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 卒 業

[大学院人間文化研究科]

博士前期課程 \_\_\_\_\_ 専攻 \_\_\_\_\_

平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 入 学 \_\_\_\_\_ 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 修 了

博士後期課程 \_\_\_\_\_ 専攻 \_\_\_\_\_

平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 入 学 \_\_\_\_\_ 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 修 了

【2】あなたが奈良女子大学を、**最終に卒業または修了された直後の進路**についておうかがいします（学部卒業後、本学の大学院に進学されている方は、大学院を修了後の進路についてお答えください）。

(1) **学部卒業または大学院修了直後の進路**は次のどれにあたるでしょうか。下記の中から、あてはまる番号をひとつ選んで○をつけてください。公務員の場合は（ ）内の空欄に職種を記入してください。

1. 民間企業勤務
2. 団体職員
3. 自営業・家業
4. 幼稚園教諭・保育士
5. 小学校教諭
6. 中学・高校教諭
7. 国家公務員（職種： \_\_\_\_\_ ）
8. 地方公務員（職種： \_\_\_\_\_ ）
9. 大学院進学（ \_\_\_\_\_ 大学）
10. 各種専門学校進学
11. 大学への再入学
12. 留学
13. 専業主婦
14. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

(2) (1) で **1～8 を選んだ方**におうかがいします。卒業または修了直後に就かれた**職業の就労形態**は、次のどれにあたるでしょうか。下記の中から、あてはまる番号をひとつ選んで○をつけてください。

1. 常時雇用される一般従業者（常時雇用）
2. パート、アルバイト、内職、派遣社員、非常勤、嘱託（臨時雇用）
3. 自営業主・家族従業者
4. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）

(3) (1) で **1～3 を選んだ方**におうかがいします。卒業または修了直後に就かれた**職業の業種**は次のどれにあたるでしょうか。下記の中から、あてはまる番号をひとつ選んで○をつけてください。

1. 農林漁業
2. 鉱業
3. 建設業
4. 製造業
5. 電気・ガス・熱供給・水道業
6. 運輸・通信業
7. 卸売業・小売業・飲食店
8. 金融・保険業、不動産業
9. 新聞・放送・出版業、広告業、映画製作業
10. 情報・通信
11. 医療・福祉
12. 教育・研究
13. 法律・会計
14. その他（具体的に \_\_\_\_\_ ）



【4】あなたが**奈良女子大学在学中（平成16年度～26年度の期間）**に身につけられた**スキル・能力等**について、おうかがいします。ご自身を振り返り、それぞれについてあてはまるものひとつに○をつけてください。

	思う	やや思う	言えない どちらとも	思わない やや	思わない
1 あなたは <b>英語</b> に関するスキルを、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
2 あなたは <b>コンピュータ等</b> の情報機器を扱うスキルを、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
3 あなたは <b>数量</b> を扱うスキルを、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
4 あなたは <b>論理的思考力</b> を、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
5 あなたは <b>一般的な教養</b> に関する知識を、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
6 あなたは <b>専門分野</b> に関する知識を、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
7 あなたは <b>問題解決能力</b> （未知の問題に対して適切な方法・手順を見だし問題を解決する能力）を、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
8 あなたは <b>課題発見能力</b> を、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
9 あなたは <b>能動的態度</b> （自ら進んで考え行動する態度）を、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
10 あなたは <b>創造的思考力</b> を、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1
11 あなたは <b>リーダーシップ</b> を、奈良女子大学で身につけることができたと思いますか。	5	4	3	2	1

質問は以上です。貴重なお時間を割いてご協力くださいましたことを心より感謝いたします。

The seal of Nara Women's University is a circular emblem. It features a central figure, possibly a stylized flower or a traditional symbol, surrounded by a wreath. The outer ring of the seal contains the text "NARA WOMEN'S UNIVERSITY" at the top and "FOUNDED 1908" at the bottom. The seal is rendered in a light blue color and is positioned behind the main title text.

---

奈良女子大学の学生教育  
の成果に関する調査結果  
報告書

---

平成28年10月  
奈良女子大学  
評価企画室・学長調査戦略室

# 奈良女子大学の学生教育の成果に関する調査結果

平成 28 年 10 月 奈良女子大学 評価企画室  
学長調査戦略室

## 調査概要

実施時期：平成 27 年 12 月

調査対象：平成 16（2004）年から平成 27（2015）年に本学を卒業・修了した者の現勤務先  
の上司

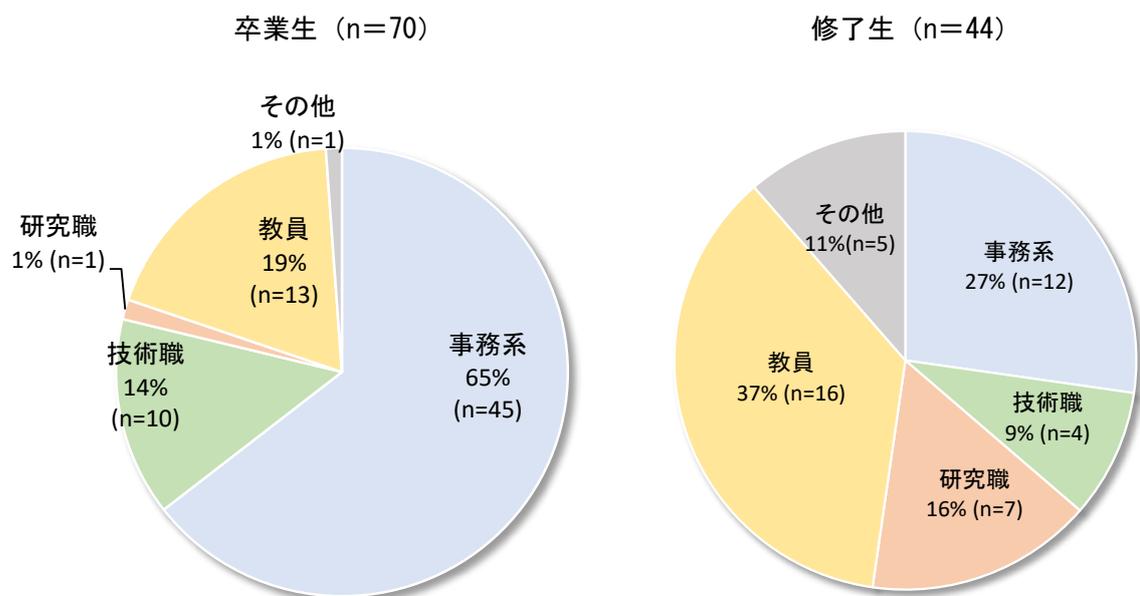
調査方法：大学が卒業生・修了生に調査依頼とともにアンケートを送付。卒業生・修了生が  
勤務先の上司（調査対象者）に回答を依頼し、上司が大学に直接返送。

回答者数：114 名（文学部 42、理学部 3、生活環境学部 25、大学院博士課程前期 33、大学  
院博士課程後期 11）

## 就業職種

学部の卒業生と大学院の修了生の実業職種については、図 1 の通りです。卒業生は事務系  
（営業・企画・販売・管理等を含む）が過半数を超えたのに対し、修了生は教員や研究職が  
多い結果となりました。なお、その他の項目には、教員と研究職、営業と現場管理など、今  
回選択肢として用意した業種のカテゴリを超えて就業している方が含まれています。

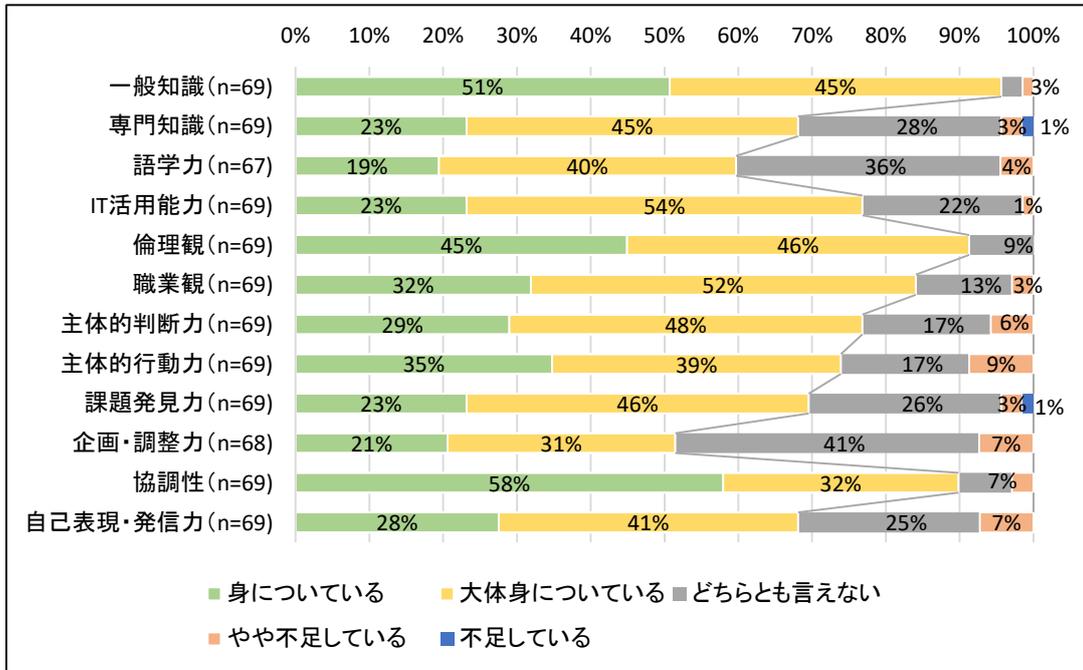
図 1 卒業生・修了生の就業職種



## 能力・資質

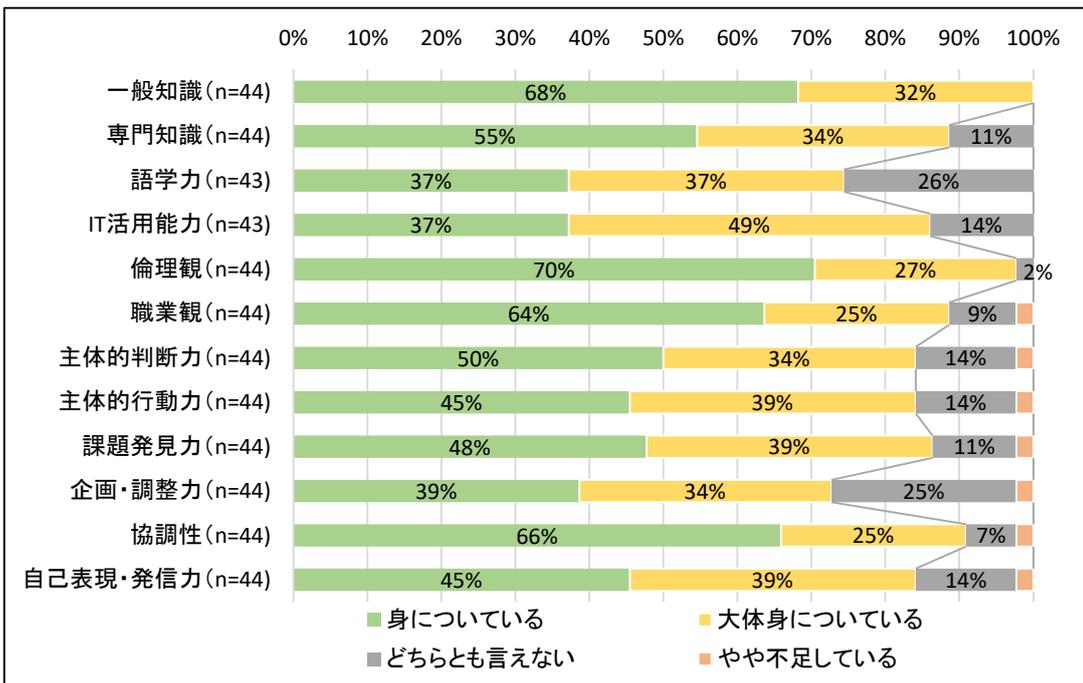
卒業・修了生に身につけている能力・資質について直属の上司の方に評価をして頂きました。図2は卒業生についてのグラフです。語学力や企画・調整力といった項目は低い評価となっており、一般知識、倫理観、協調性といった部分は高く評価されています。

図2 卒業生に身につけている能力・資質



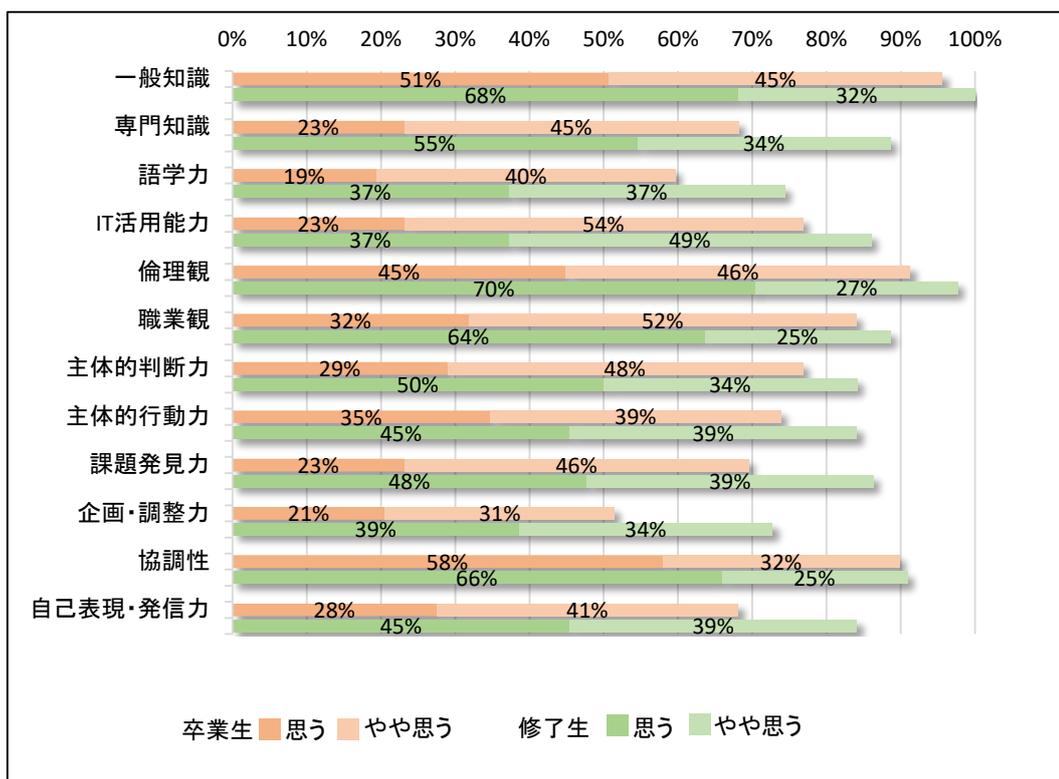
同様の分析を大学院修了生でもおこなったところ、学部生と同様、一般知識や倫理観が高く、企画・調整力や語学力が低く評価される結果となりました（図3）。

図3 修了生に身につけている能力・資質



さらに、「大体身につけている」、「身につけている」と回答した割合を学部の卒業生と大学院の修了生で比較しました（図4）。修了生の方が能力・資質に対する評価が総じて高くなることがわかりました。特に、専門知識や語学力、企画・調整力といった項目が上昇しています。しかし、学部生からの課題である語学力や企画・調整力といった項目は、他に比べると低いままであり、大学院での教育でも課題だと考えられます。

図4 卒業生・修了生に身につけている能力・資質



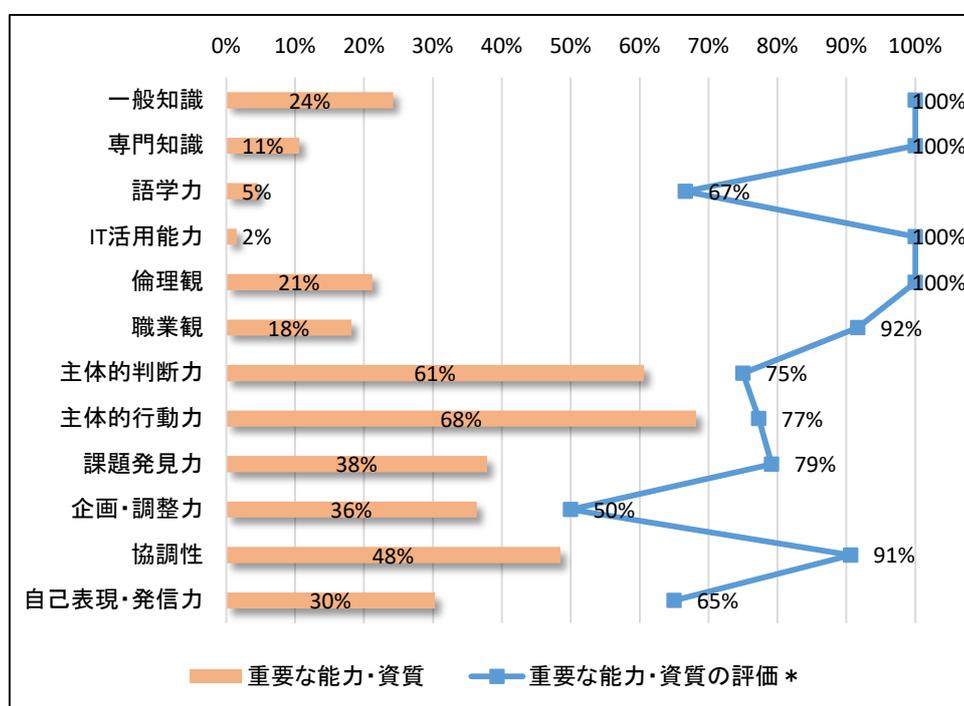
## 重要視する能力・資質

さらに、前述の項目の中から上司の方が特に重要と考える能力・資質について複数回答でたずねました。この結果と上述の内容を組み合わせ、重要であると考えられている能力・資質を本学卒業生・修了生がどの程度満たしているかを分析しました（図5・図6）。具体的には、各能力・資質を「重要である」と答えた上司の方の割合と、その方が本学卒業生・修了生に対してその能力・資質が「身につけている」、「だいたい身につけている」と回答した割合を算出しました。

まず、卒業生の結果です（図5）。重要な能力・資質としては主体的行動力、主体的判断力が最も多く挙げられていました。対して、語学力やIT活用能力は他の能力・資質と比べると相対的に重要度が下位に位置付けられることがわかりました。

能力・資質に対する評価は、一般知識、専門知識、IT活用能力、倫理観において高く、企画・調整力、自己表現・発信力、語学力において低いことがわかりました。特に、重要と考えられているにも関わらず「身につけている」という評価が少なかった企画・調整力や自己表現・発信力については、対策が必要であると考えられます。

図5 特に重要だと考える能力・資質とそれに対する評価  
(学部卒業生対象、n=66)

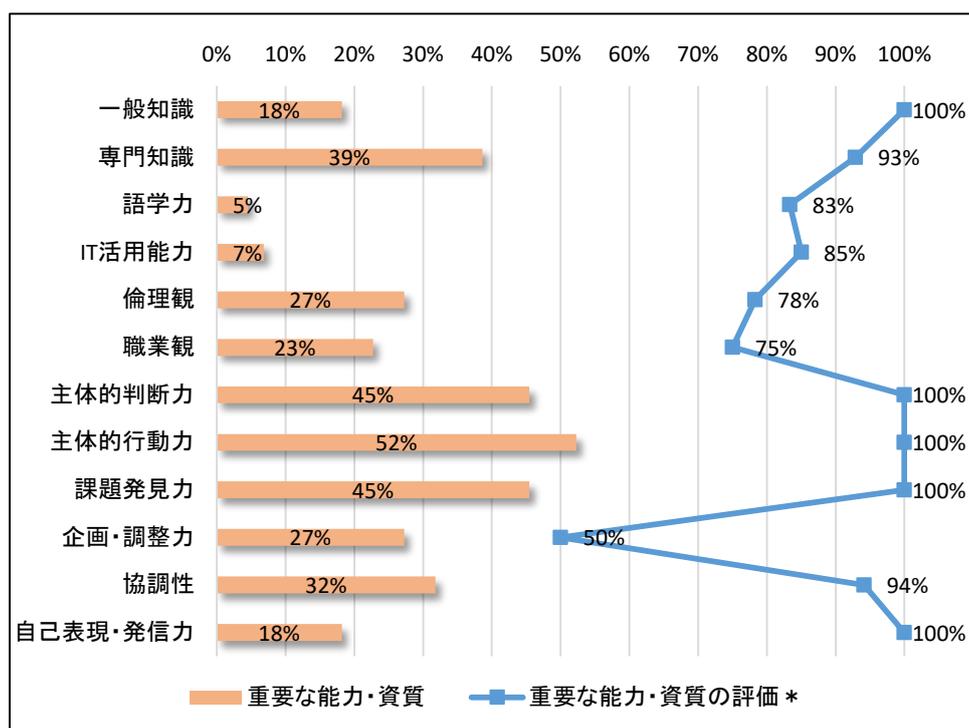


\*重要な能力・資質の評価は、各能力・資質の項目に対して、「重要である」と回答した方の中で、それが本学卒業生・修了生に「身につけている」、「だいたい身につけている」と回答した方の割合

次に、修了生で同様の分析をおこないました。その結果、重要だと考えられている能力については、卒業生とほぼ同様の結果となりました。語学力やIT活用能力といったスキルよりも、一朝一夕に身につくものではない主体的な能力の方がより重視されているからだと考えられます。重要だと考えられている能力の中で、大きな差がみられたのは専門知識のみで、卒業生より修了生において重要だととらえられていることがわかりました。専門知識については評価も高く、概ね期待に込えられていると考えられます。

他の項目の評価については、語学力の評価が低く、一般知識やIT活用能力の評価が高い点は卒業生と変わりませんでした。変わった部分としては、卒業生にあまり身につけていないとされた自己表現・発信力や企画・調整力への評価が修了生になると高くなっていることがあげられます。

図6 特に重要だと考える能力・資質とそれに対する評価  
(大学院修了者対象、n=44)

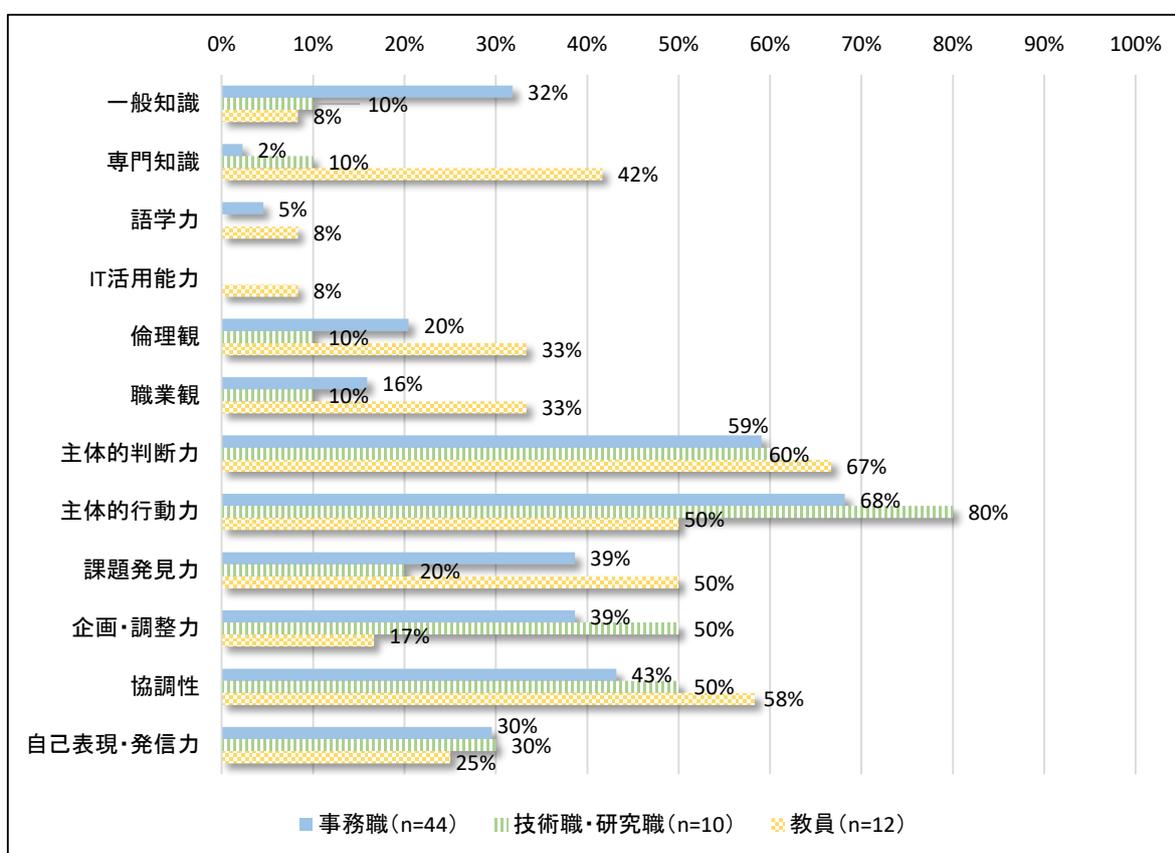


\*重要な能力・資質の評価は、各能力・資質の項目に対して、「重要である」と回答した方の中で、それが本学卒業生・修了生に「身につけている」、「だいたい身につけている」答えた方の割合

同じデータを職種別で分析しました。まず卒業生についてです（図7）。すべての職種で主体的な行動力・判断力、協調性が求められていることがわかります。対して、IT活用能力や語学力は全般に必ずしも重要視されていないことがわかりました。後者は業務によっては発揮される機会が少ない能力・資質であるためだと考えられます。

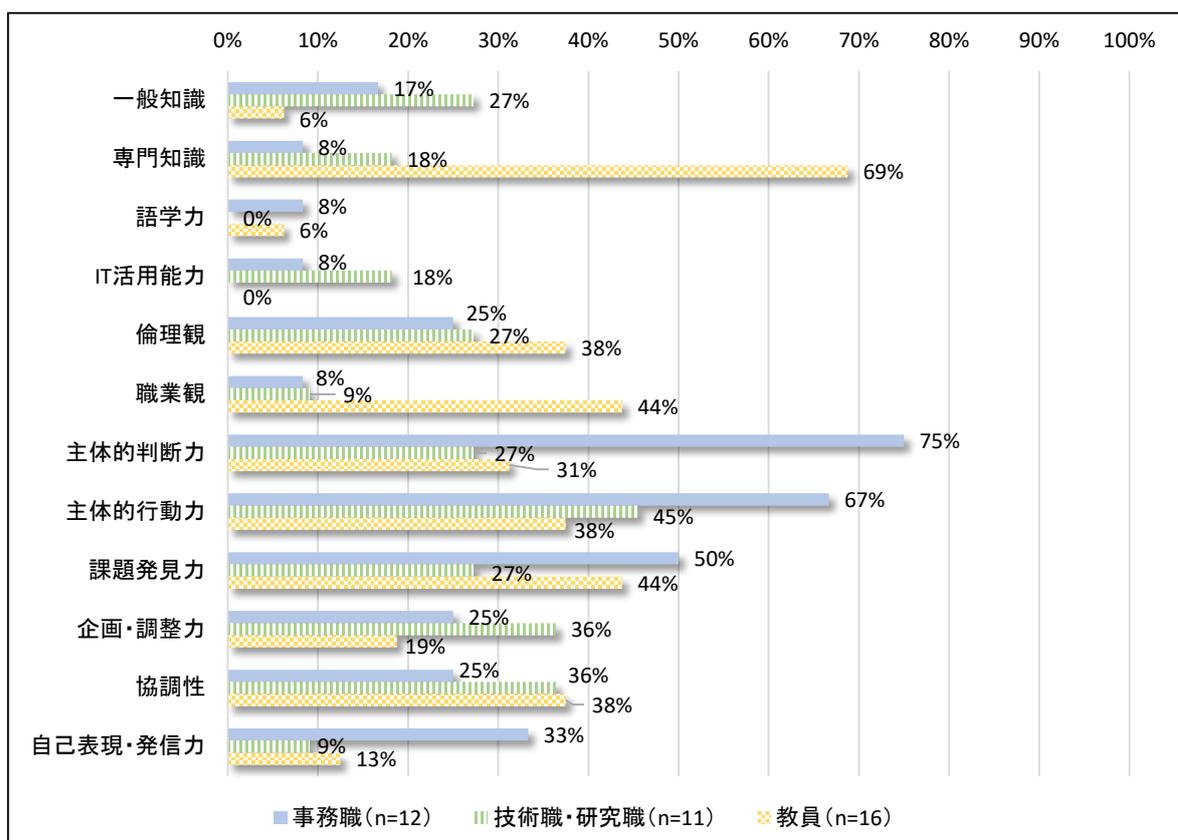
職種による差がみられた項目もありました。たとえば、一般知識は事務職で、専門知識は教員で特に重要視されることがわかりました。また教員では職業観や倫理観といった項目が、事務職と技術職・研究職では企画・調整力といった項目が重要視されていました。

図7 卒業生に特に重要だと考える能力・資質（職種別）



次に修了生についてです（図8）。修了生については、サンプル数が少ないこともありますが、職種によってかなりばらつきがみられました。事務職、技術職・研究職において主体的行動力が重要視され、語学力はどの職種においても相対的な重要度が下がる結果となりました。また、卒業生と比べると、事務職以外は主体的判断力を重視する度合いが低くなっています。

図8 修了生に特に重要だと考える能力・資質（職種別）



## 本学の人材育成に関するご意見

以下、「本学の人材育成」に関して自由記述でいただいたご意見を業種別にまとめました。波線が引いてある部分は本学の卒業生・修了生、または教育に対していただいたご意見です。

ほとんどすべての職種に共通していたのは、「対人関係」に関する記述があったことです。どのような職種であれ職場の内外の人と関わることがあるため、必須の能力・資質であると考えられます。

なお、プライバシー保護のため、個人の特定につながるような資格や勤務年数に関する部分の記述は省略させていただきました。

今回頂いたご意見・ご要望が活かされるよう尽力していきたいと思っております。

## 事務系—事務

- ・能力、資質は高いレベルだと思いますので、特に意見ありません。
- ・状況判断や分析能力に優れた人材の育成が社会への貢献につながると考えます。又、本人が社会に出て生き抜いていくためにも、重要な要素だと思います。
- ・頼りになる人材育成ができていますと思います。
- ・コミュニケーション能力及び協調性が高く、先輩職員に指示を仰ぎながら、頑張ってくれています。
- ・女性が上司になる機会が増えると考え、部下を引っ張る有能な人材育成を期待しています。
- ・学校で習った事と実際の社会での対応は常に同じとは限らないため、柔軟な対応が出来る方であるとありがたいです。
- ・大変優秀で、業務の習得意欲も高く、日々成長しています。貴学の指導が現在につながっているものと思います。大変すばらしいです！！
- ・本当に良い人材が入社して戴けたと、有難く嬉しく思っております。
- ・貴学出身の職員とは、何名か一緒に仕事をしたことがありますが、どの者も素晴らしい能力、資質を備えており、若手職員の範となっているところです。もっと「なぜ?、どうして?」という課題を見つける力を身につけ、さらなるランクアップを目指してほしいと思います。
- ・職場としては、すぐに役立つ人材を求めがちですが、長期で考えると、技術的な育成よりも”人間力”を高めていただくことが重要だと感じます。貴大学卒業生は、学生時代に様々な経験をしていてバランス感覚の良さ、人間力の豊かさがあります。
- ・必要な知識や能力は年数経過とともに培われていくものですが、最近の新規採用者は、一般常識がやや不足しているように見受けられますので、言葉使いやマナー等の一般常識を強化していただければと思います。
- ・バランス感覚に優れた人材を育成頂いていると思います。
- ・大学で学んだ専門性を活かせる職業に就くことは難しいですが、男女共同参画推進のために、これからも職場で活躍できる優秀な人材を送り出してください。
- ・人の話をしっかり聞き、理解しようと努める姿勢が強く見られ、素晴らしいと感じています。

## 事務系—営業

- ・大変優秀な人材を弊社に頂いております。
- ・一を聞いて十を知る、大変素晴らしい理解力をお持ちです。老若男女、様々な人間が集まる会社の中で、いかに自分の見識を伝え、回りを動かしていくか、その発信力にはこれからの成長に期待したい部分もあります。今後社会経験を積まれて、学生時代に身に付けた豊かな教養を実践に活かしていくことと思います。
- ・グローバルな視点を含め、仕事に対して、幅広い視野、柔軟な思考性を持った人材を育てていただきたく存じます。
- ・真面目な方が多いと思います。真面目さは大切ですが、それだけでは、社会に出てから色々な事に対応していくのは、大変かなと感じます。社会人での身だしなみ、髪型など、すっきりと誰から見ても、魅力的でセンスの良さも少なからず必要になります。人は第一印象で、その人の事を見てしまう為、センスも大切かと思えます。
- ・基礎的事務知識は概ね良好に習得されています。主体性を発揮していく為にも、”自分の立ち位置”をしっかりと構築させ、自信をもって拡張させてゆくつもりです。主体的判断力・主体的行動力は「どちらとも言えない」としましたが、業務全体の流れが理解出来て初めてアクティブに動ける事もある為です。”メンバーの一員として動かねばならない”という自覚は充分と持ち合わせており、今後の成長を楽しみにしております。
- ・この度は素晴らしい人材を輩出いただき心より感謝しております。
- ・まだ入社から間がなく、能力、資質はこれからです。これから少しずつ育成していきます。
- ・倫理観、職業観など高い意識を持った人材を育てられていると感じます。
- ・仕事に打ち込む精神があり、積極的に新しい事にチャレンジされています。

## 事務系—企画・販売

- ・自己の意見をしっかりと持ち、協調性もあります。順調に成長し、戦力となっています。
- ・非常に積極的で主体性がある為、人材育成には感服いたします。語学力に関しては、言語として使えるレベルを高める、というよりは使うことに対する抵抗感を払拭する教育をして頂きたいです。
- ・大学での専攻と企業での職種が全く異なりますが、専門分野を含めた学業を通じて培ったであろう向上心、好奇心を発揮して優れた業績を上げております。大学には様々な役割がありますが、やはり学業を通じて磨かれた人材にはとても魅力を感じます。
- ・ビジネススキルだけでなく、対人関係能力も視野に入れた育成を希望、期待します。
- ・社会人としての基礎知識、能力は充分身に付いていますので、引き続き注力いただきたいです。また、語学力も大変重要となってきましたので、特に生きた外国語に触れる機会を多く設けていくことが大切と思います。
- ・仕事に対する熱意が高く、周りを巻き込みながら、自ら進んで大きな課題の解決に邁進しています。文章力には課題を感じるものの、仕事で重要なことはコミュニケーションと熱意です。会社は必ずチームで動くので、きちんとコミュニケーションを取りながら進めていくことが求められますが、意外に難しい事です。また熱意があれば、業務に必要なスキルは自然と身に付き、人を動かす原動力になります。
- ・今のままで大丈夫です。

## 事務系—その他

- ・一年目以降の、“のび”を強く感じました。
- ・優秀な方が多いです。結婚、出産を機に辞める方が多いので、もっと長く働いてもらえるような気付きがあれば良いと思います。
- ・土地柄おっとりしています。長所でもありますが、会社の仕事を進める中では、TPOを考慮して対応できる様な人材育成をお願いします。
- ・今後、企業における重要課題である「両立支援(ワークライフバランス/ダイバーシティ)」の実現に向けては、男女問わず学生時代から就職観を形成するための機会を多く設けていただけたいです。
- ・社内において極めて高いパフォーマンスを発揮しており、教育の賜物であると感じています。入社して即戦力となる技術力や経験は求めています。誤っていても組織がカバー・フォローします。自ら考え、自ら動き、自身の結論を導く姿勢が常日頃から見られる社員を今後も期待致します。

## 技術職

- ・ひかえ目な感じで仕事をしています。もう少し必要な技術などについて、積極的に吸収したり、考えたりすることができれば最高です。
- ・真面目に仕事に取り組み、新しい知識を得ることは積極的です。勉強をコツコツやるのが得意という印象があります。さらに自分から周囲に声をかけて仕事を進め、行動力をUPするような教育ができれば、理想的な人材を多く産出できるのではないのでしょうか。
- ・判断力などの基礎的な能力をよく育成できています。今後も、即戦力ではなく、素質を伸ばす教育を続けて、良質な人材を輩出していただきたいと思います。
- ・モチベーション・マインド・アイデンティティ確立、強化を期待します。
- ・幅広い経験に裏付けされた知識と、それをベースとした判断力、発信力が素晴らしいです。入社後も、若くして最前線で働き、成果をあげている方が多く、各部署において重要な人材とされています。
- ・技術職として採用した職員にも、事務処理能力、製品を売り込んでいく能力が求められていますので、人材育成の際、念頭に置いていただければと思います。
- ・女子大学という、特殊な位置付けを生かした人材育成に期待します。最も期待するのは、単なる就職予備校に成り下がるのではなく、あるひとつのテーマを、長期(学部4回生なら1年、修士なら2~3年)にじっくり取り組み、課題抽出→仮説提示→検証→発信(論文執筆)のプロセスを経験し、成し遂げるという成功体験です。

## 教員

- ・担任として日々生徒とともに活動されています。専門知識を持たれた教員として期待しています。
- ・大変、良い人材を育成して頂いており、職能だけでなく、人間として、素晴らしいです。
- ・今後とも、有能な人材を育成して下さい。
- ・困難な場面に遭遇しても、前向きに物事を捉え、時間を惜しまず頑張っています。
- ・貴学の教育目標である「個々の適性、能力を引き出し、深い学識を備え、情緒豊かで品位ある人材を育成する。また、様々な事象を総合的に理解、判断した上で、目的意識を持って主体的に行動し、社会をリードする人材を育成する。」という姿勢に敬意を表します。
- ・上記アンケート項目の具体的教育方法です。
- ・誠実な人柄で、感性も豊かです。非常に優秀で常に自己の課題や全体の研究課題等に積極的に取り組んでいます。子どもの見とりが的確で、共感性をもって適切な援助を行っています。そしてそれを保護者に丁寧に伝え、信頼されています。また、チームワークを大切にして、状況に応じて自分のすべきことを主体的に判断して行動できます。本人の能力が高く、専門分野で研究したことが十分に身に付いているからこそ、職場でも自己発揮できていると考えます。能力の高い学生が入学してくると思われるので、在学中に熱心に取り組める専門分野や研究が見つかること、そこで納得できるまでとことん追求することが、今求められている人材になっていくのではないのでしょうか。
- ・今後、教員に対する資質向上に向けての取組が重要となります。そのためにも自己表現力を育成するための場を多く設定していくことが不可欠だと思います。こうした経験を通して、判断力や行動力、そして協調性も自然と養うことができると考えます。
- ・主体性があり、行動力があります。また、家庭との両立もうまくやられています。本人の資質、気質を見ると、未来の教育界を担う方だと感じます。教員は生徒に対応する上で、自らが解決するという気持ちで接することが特に重要です。
- ・人材育成に関しては個人差があり一言で申し上げることはできませんが、教員である限り、生徒だけでなく、他の教職員とのコミュニケーションがいかに大切であるかをお教えいただければと思います。IT化、グローバル化が急速に進み、職場においても、IT教材が重宝される現代社会であるからこそ、face to face のコミュニケーションの大切さをより強調していただければ、と存じます。
- ・基礎的知識、専門知識をしっかりと身につけておいてほしいです。対人関係、特に年配、経験者から積極的に学ぼうという姿勢を持ってほしいです。指示待ち、言われたことしかしない、という受身的態度は困ります。
- ・教育という場で女性として(人間として)自分の生き方を示しています。これからの 21 世紀をリーダーとして(これは権力をもってという意味ではなく)ロールモデルとして活躍する人材を輩出していただきたいです。
- ・教員としての自覚を持って職務に励んでいます。なにより子供たちのことを大切に思っています。

## 教員（続き）

- ・ 特別支援的な配慮の必要な子供たちや、非行を繰り返す精神的に不安定な子供たちなどとのボランティア活動も、積極的に行って見られてはどうでしょう。児童理解ができる活動的な学生の育成をお願いします。
- ・ 教科、科目に対する専門知識は元より、教員としての資質や能力も秀でており申し分ないです。
- ・ これからの時代に適合した社会性があり、バランスの取れた人材の育成を期待します。
- ・ 非常によくやって下さっています。勤務態度に関して何も言うことはありません。分掌業務も労をいとわず、きちんとこなしてもらっています。本務の教育、研究についても申し分ありません。長く勤めて下さることを期待しております。
- ・ 誠実な方で、頑張っておられます。

## 研究職

- ・ 上記の能力、資質をきっちりと具えた優秀な人材が多いと認識しております。これからも引続き、優秀な人材育成に、ご尽力いただき、当社ともつながり続けていただければと思います。
- ・ 大変素晴らしいです。
- ・ 素晴らしい人材にめぐり会えて感謝しています。現職にてさらに資質が向上されるよう、できるだけ支援をしたいと考えています。

## その他

- ・ 能力面を見て採用しがちですが、結果として長続きするかどうかは人間性ということになります。昨今は、職場において家庭教育の延長もせねばならないような状況ですが、学生時代に様々な経験を積み、就職した後は社会人教育と職業知識の修得に専念できるようにしていただければと思います。
- ・ 基礎学力がしっかり身に付いている上に、専門分野における研究でじっくりと課題に取り組んでおり、社会で充分発揮していただける人材と思います。
- ・ マイノリティーである障害分野との接点も学生の方々に経験して頂き、幅の広い人材育成をお願いします。
- ・ 専門知識と同時に「自ら考える力」を身につける教育を期待します
- ・ 何事にも、積極的に取り組む姿勢は評価できます。ただ、個人の特性によるところが大きいと思いますので、他の学生が同様のレベルにあるのか気になります。

奈良女子大学の学生教育の成果に関する調査（平成27年11月）

【問1】 本学卒業・修了生の**貴社(貴機関)での職種**について、下記の中から、あてはまるものに○をつけてください。

- ①事務系：事務 営業 企画 販売 管理 他（                    ）  
 ②技術職           ③研究職           ④教員           ⑤その他（                    ）

【問2】 下記の**能力・資質**について、本学卒業・修了生が身につけていると思われるかどうか、おうかがいします。それぞれについてあてはまるものひとつに○をつけてください。

	身につけている	だいたい身につけている	どちらとも言えない	やや不足している	不足している
1 一般教養・知識	5	4	3	2	1
2 専門知識	5	4	3	2	1
3 語学力	5	4	3	2	1
4 IT活用能力	5	4	3	2	1
5 倫理観	5	4	3	2	1
6 職業観	5	4	3	2	1
7 主体的判断力	5	4	3	2	1
8 主体的行動力	5	4	3	2	1
9 課題発見力	5	4	3	2	1
10 企画・調整力	5	4	3	2	1
11 協調性	5	4	3	2	1
12 自己表現・発信力	5	4	3	2	1

【問3】 【問2】 に示した**能力・資質**のうち、特に**重要と思われるもの**を番号でお答えください（複数回答可）。

回答欄： \_\_\_\_\_

【問4】 本学の人材育成に関し、ご意見がありましたらお聞かせください。

奈良女子大学の学生教育の成果に関する調査結果  
報 告 書

平成28年10月

奈良女子大学  
評価企画室（室長 井上容子）  
学長調査戦略室（室長 小路田 泰直）

（連絡先：奈良女子大学 総務・企画課）

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

Tel : 0742 (20) 3692

E-Mail : [hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp](mailto:hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp)

## 【資料6】卒業生の振り返り調査結果

平成29年10月 学長調査戦略室

### 調査方法

調査目的：卒業生の在学時及び卒業後の状況把握

実施日：平成29年8月20日

調査方法：卒業後30周年同窓会にて出席者に質問紙を配布し、各テーブルに設置された封筒にて回収を行った。

調査対象：卒業後30周年同窓会出席者（昭和62年3月卒業生）

集計人数：有効回答215（対象者：231名 回収率：93.1%）

なお、学部・学科ごとの回答状況は以下のとおりである。

文学部 69名（社会学科：5、国語国文学科：5、英語・英文学科：17、史学科：9、地理学科：5、教育学科：24）

理学部 61名（数学科：13、物理学科：20、化学科：18、生物学科：10）

家政学部 85名（食物学科：23名、被服学科：22、住居学科：23、生活経営学科：17）

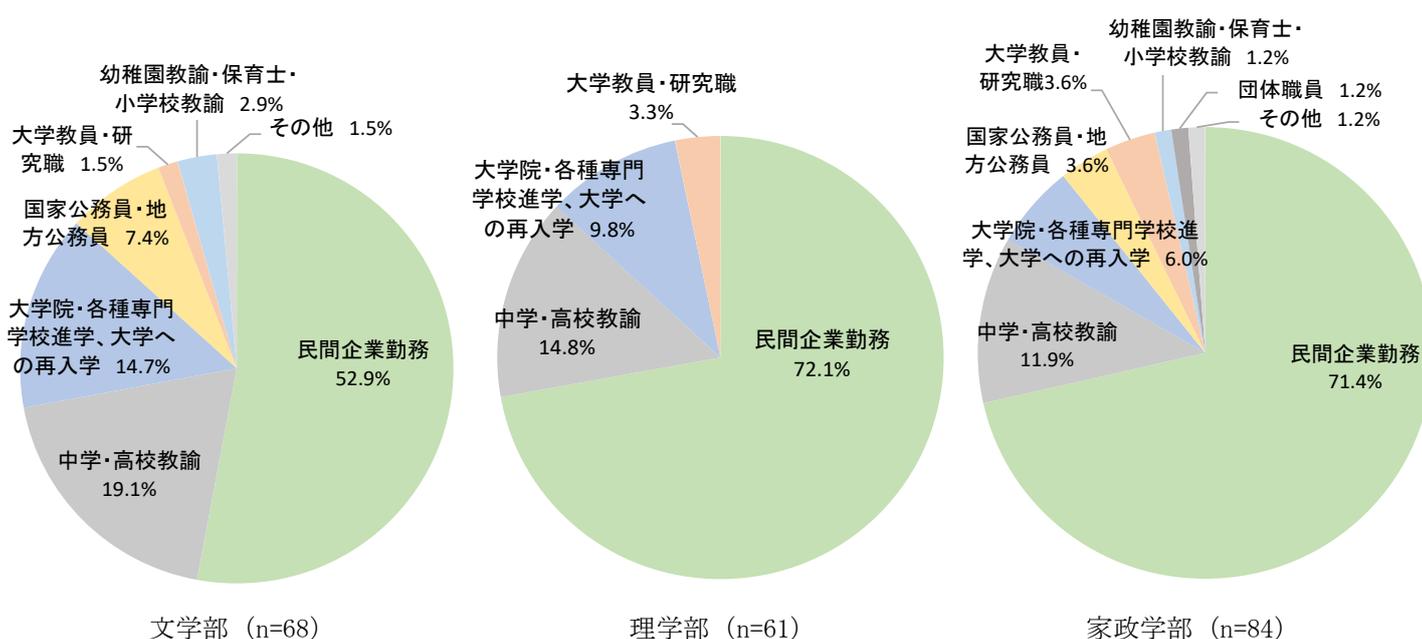
### 調査結果

#### 卒業直後の進路

卒業直後の進路を学部ごとにグラフにしたところ、図1の結果となった。

文学部は中学・高校教諭、国家公務員・地方公務員の割合が他学部と比べて高かった。理学部・家政学部は共に民間企業の割合が高かったが、内訳としては、理学部は技術職・専門職、家政学部は企画・事務といった職種が多かった。

図1 卒業直後の進路

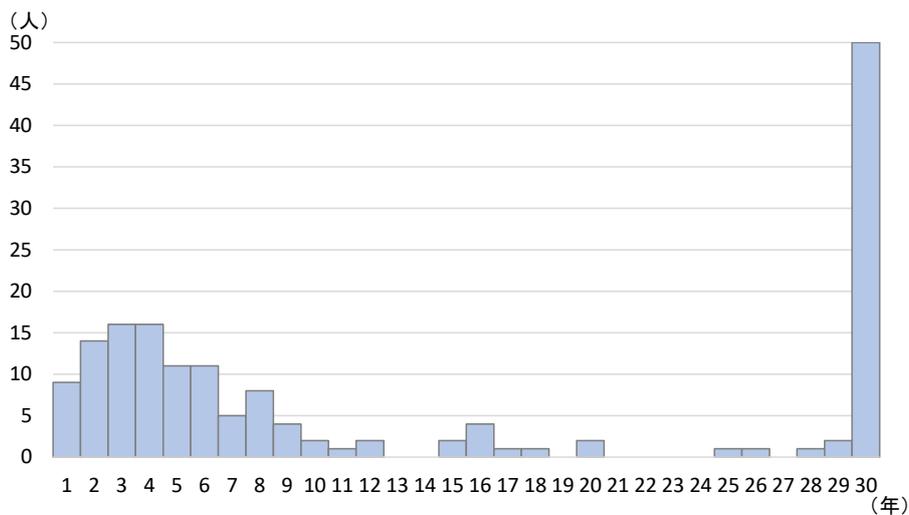


次に、卒業直後の就職先での勤続年数について、ヒストグラムを作成したところ、最初の職場で勤続している者が最も多かった（図2）。卒業直後の就職先を離れるタイミングとしては、卒業後3～4年が最も多く、6年を経過すると離職者数が下がることが明らかになった。

また、勤続30年の卒業生（50名）の職種として多いものは、民間企業（24名）、高校教諭（20名）、地方公務員（4名）であった。特に高校教諭、地方公務員は就職者の母数自体がそれぞれ30名、6名と少ないため、他の職業より勤続年数が長い傾向にあると考えられる。

対して6年以内の離職は民間企業が最も多く、就職者215名中離職者は60名であった。民間企業の中でも営業職は回答した6名全員が、研究職は10名中7名が6年以内に離職しており、流動性が高い傾向がある。

図2 勤続年数の度数分布 (N=164)

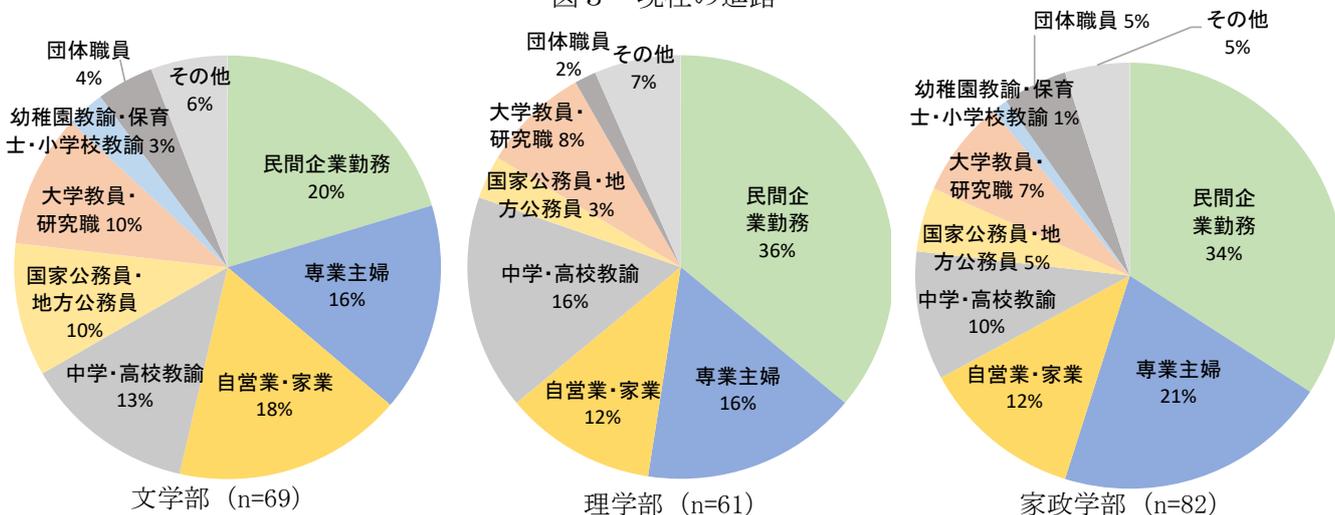


現在の進路

現在の進路について、学部ごとにグラフ化したものが図3である。全体として、卒業直後は民間企業に大きく偏っていた進路状況に多様性がでて、自営業・家業、専業主婦という選択肢が出てきている。また、雇用形態は、卒業直後には189名中184名が正規雇用であったのが、現在は145名中93名と減っている。

学部ごとにみると、文学部については、卒業直後と同様、民間企業の割合が他学部より低く、公務員の割合が高い。理学部は民間企業勤務の割合が比較的高いが、中学・高校教諭の割合も高くなっている。家政学部については、専業主婦の割合が他学部に比べて高い。

図3 現在の進路



## 卒業直後と現在の進路比較

卒業直後と現在の状況はどのように異なるのかを集計したところ、表1のようになった。民間企業に就職した者のうち、36.0%が卒業直後の進路にはなかった自営業・家業及び専業主婦へと変わっている。また、卒業後、大学院等へ進学及び再入学した者については、現在民間企業に勤務している者や、大学教員・研究員に従事している者が多かった。

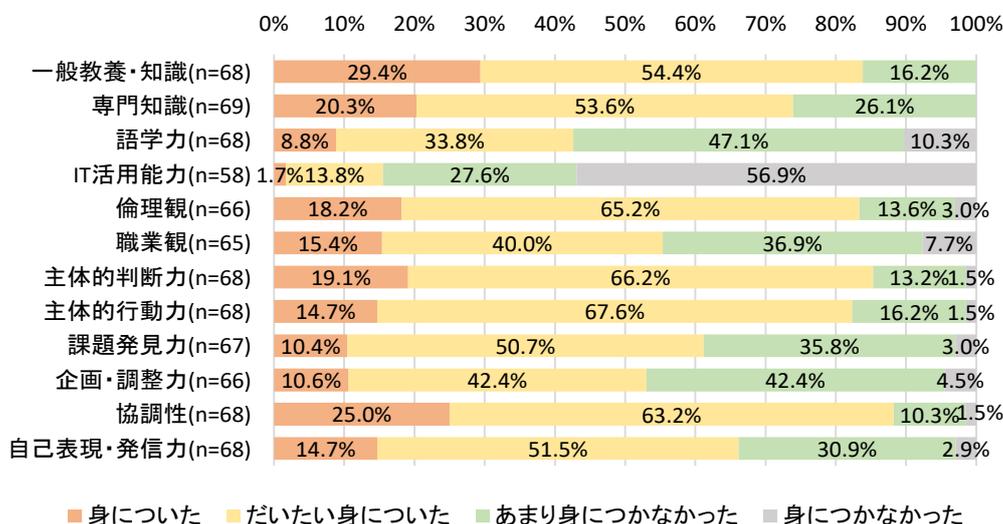
表1 卒業直後の進路と現在の進路のクロス集計

		卒業直後の進路								合計
		民間企業勤務	団体職員	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭	中学・高校教諭	大学教員・研究職	国家公務員・地方公務員	大学院・各種専門学校進学・大学への再入学	その他	
現在の進路	民間企業勤務	56 26.5%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	6 2.8%	0 0.0%	64 30.3%
	団体職員	6 3.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	8 3.8%
	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭	2 0.9%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 1.4%
	中学・高校教諭	4 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	20 9.5%	0 0.0%	1 0.5%	2 0.9%	0 0.0%	27 12.8%
	大学教員・研究職	6 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	4 1.9%	1 0.5%	5 2.4%	0 0.0%	18 8.5%
	国家公務員・地方公務員	7 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	5 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	13 6.2%
	自営業・家業	22 10.4%	0 0.0%	1 0.5%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.5%	2 0.9%	1 0.5%	28 13.3%
	専業主婦	28 13.3%	1 0.5%	0 0.0%	5 2.4%	1 0.5%	0 0.0%	3 1.4%	0 0.0%	38 18.0%
	その他	8 3.8%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 0.9%	1 0.5%	12 5.7%
	合計	139 65.9%	1 0.5%	3 1.4%	31 14.7%	6 2.8%	8 3.8%	21 10.0%	2 0.9%	211 100.0%

## 大学で身についた能力・資質

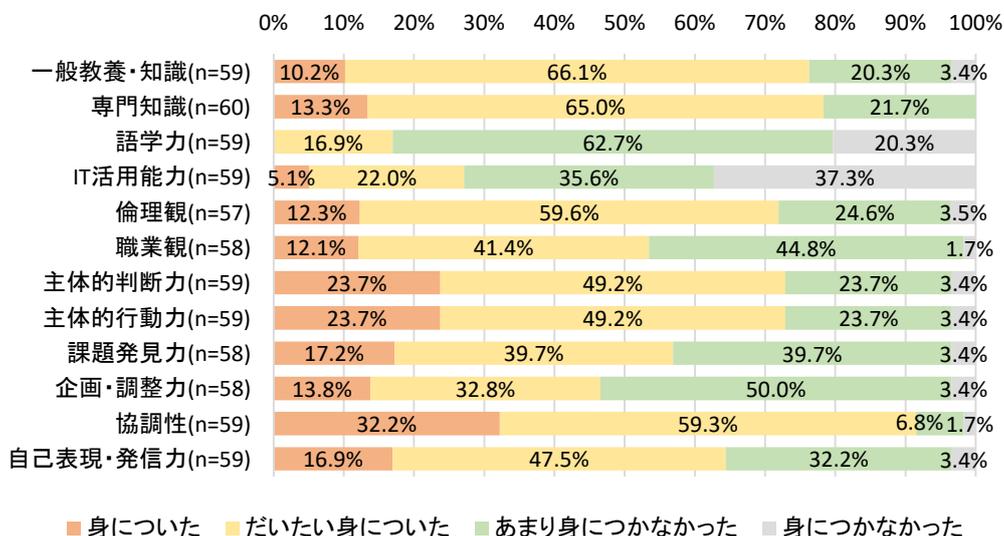
各能力・資質について、大学で身についたと思うかたずねたところ、文学部については図4の結果となった。「身についた」、「だいたい身についた」と回答した割合が高かった項目は、一般教養・知識、専門知識、倫理観、主体的判断力、主体的行動力、協調性であった。対して、語学力、IT活用能力はその割合が50%以下であった。

図4 文学部卒業生が在学中に身についた能力・資質



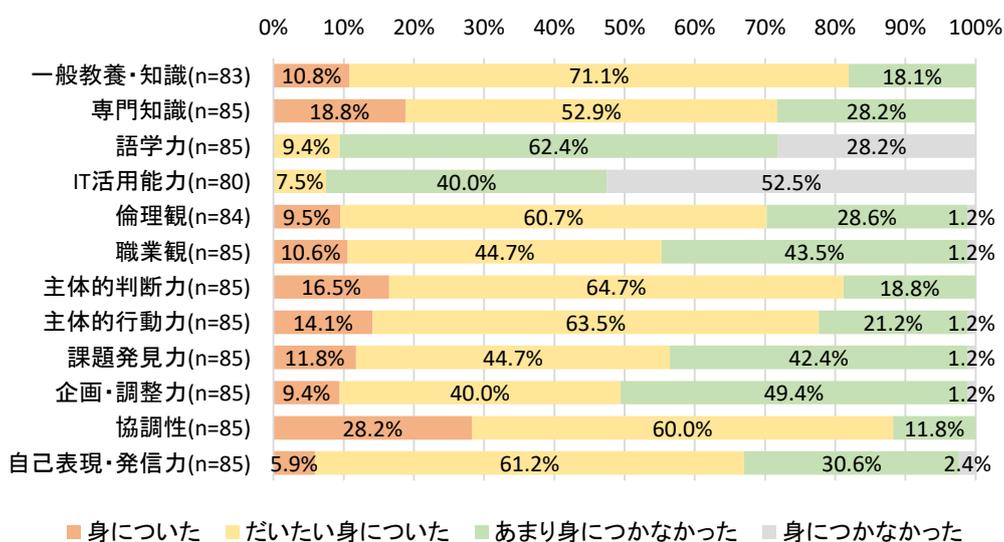
理学部も同様の分析をしたところ、一般教養・知識、専門知識、倫理観、主体的判断力、主体的行動力、協調性について、「身についた」、「やや身についた」と回答した割合が高かった（図5）。対して、語学力、IT活用能力、企画・調整力はその割合が低かった。

図5 理学部卒業生が在学中に身についた能力・資質



家政学部については、「身についた」、「やや身についた」と回答した割合が高かったのは、一般教養・知識、専門知識、倫理観、主体的判断力、主体的行動力、協調性であった（図6）。対して割合が低いのは、語学力、IT活用能力、企画・調整力であった。

図6 家政学部卒業生が在学中に身についた能力・資質

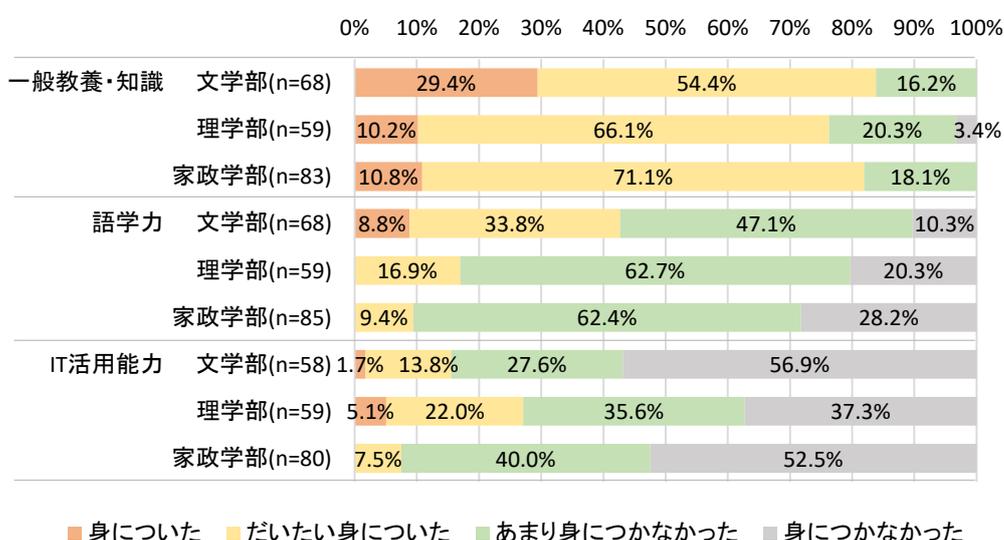


身についた能力・資質の学部間の平均値の差を比較するために分散分析<sup>※1</sup>をおこなった。その結果、一般教養・知識(F(2, 207)=4.112, p<.018)、語学力(F(2, 209)=15.819, p<.000)、IT活用能力(F(2, 194)=5.048, p<.007)に有意差がみられた。多重比較<sup>※2</sup>をおこなったところ、一般教養・知識は文学部と理学部に、語学力は文学部と理学部・家政学部に、IT活用能力は文学部・家政学部と理学部の間にそれぞれ有意差がみられることがわかった。

この三項目について、3学部の分布を比較したものが図7である。一般教養・知識及び語学力においては文学部が、IT活用能力については理学部が在籍中に能力が身についたと回答した者が多かった。語学力及びIT活用能力は各学部の専門性にも関連してくるといえる。

また、文学部は分属が遅いため、一般教養・知識が身についたと回答した割合が高かった可能性がある。

図7 卒業生が在籍中に身についた能力・資質の学部間比較  
(平均値に有意差があった項目を抜粋)



なお、これらの能力・資質の中で「在学時、身につける必要性を感じていなかったもの」についてもたずねたところ、挙げた項目ほとんどなかったが、唯一多かったものがIT活用能力で、215名中22名が身につける必要性を感じていなかったと回答した。続いて多かったのは語学力(8名)であった。対して、主体的行動力、主体的判断力は身につける必要性を感じていなかった者は0名という結果になった。

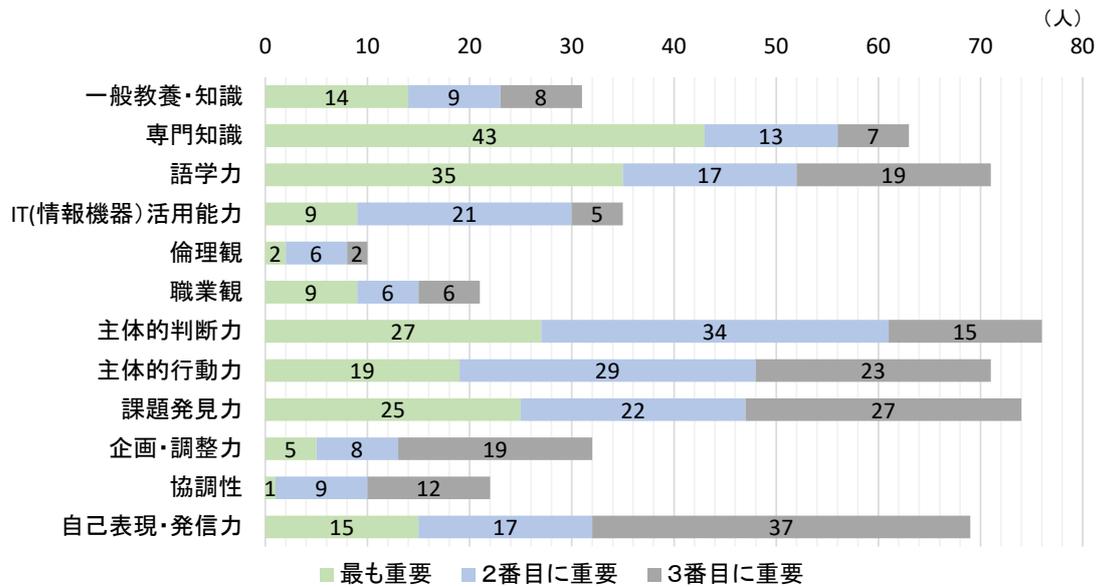
また、能力・資質のうち、今振り返ると特に本学在学時に身につけておくべきだと思われるものを重要と考える順に3つまで回答してもらったところ、図8のような結果となった。

主体的判断力、課題発見力、語学力、主体的行動力といった項目が重要だと考えられており、対して倫理観、協調性、職業観といった項目は重要度が低かった。また、「最も重要」と考えられていた項目は専門知識や語学力であった。IT活用能力については、在学時身につける必要を感じていなかった能力としてあげられていたが、この設問においてもそこまで重要度が高く位置付けられておらず、在学時のイメージと卒業後の実態には大きな齟齬がなかったと考えられる。

※1 分散分析：3群以上からなるデータの母平均の差を検定する際に使用する分析方法。今回の場合、昭和62年卒業生において、在籍中に身についた各能力・資質の学部ごとの平均値に統計的に意味のある差(有意差)があるのかを調べるためおこなった。

※2 多重比較：各学部の平均に有意差があった際に、どの学部とどの学部間に有意差があるか調べるためおこなった。

図8 重要だと考える能力・資質 (N=204)

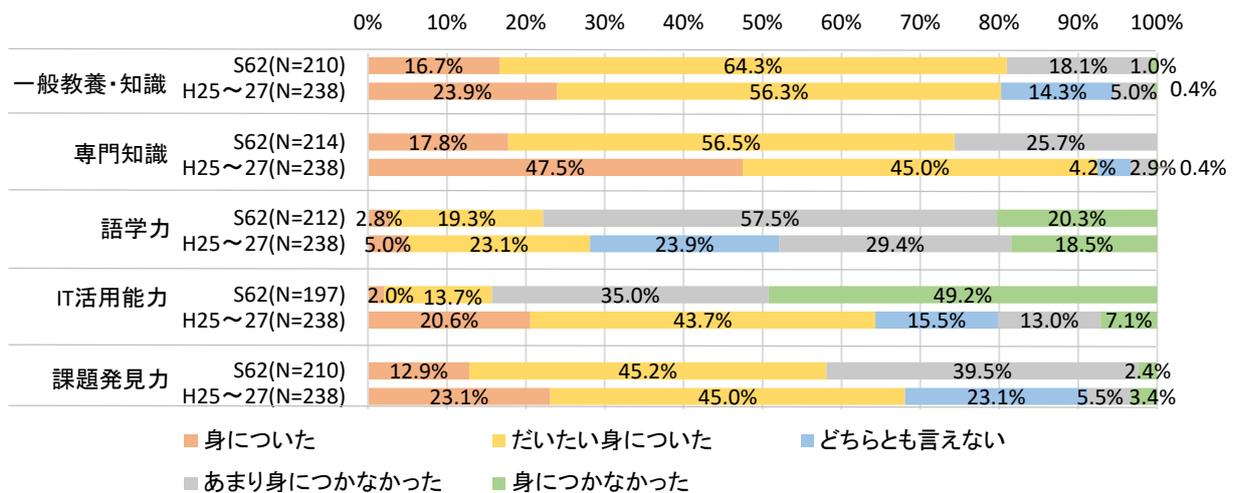


### 過去におこなったアンケートとの結果比較

平成 27 年 6～7 月に、本学同窓会員におこなった調査から、直近である平成 25～平成 27 年の卒業生を抽出し、在学中に身についた能力・資質において、対照できる質問項目の比較をおこなった（図 9）。

平成 25 年～平成 27 年の卒業生を対象とした調査は 5 件法、今回は 4 件法で調査をおこなっているため、一概に比較はできないが、今回の調査対象である、昭和 62 年卒業生と比較すると、一般教養・知識を除いて全体に「身についた」及び「だいたい身についた」と回答した者の割合が上昇している。特に上昇しているのは IT 活用能力と専門知識であった。

図 9 在学中に身についた能力・資質の比較



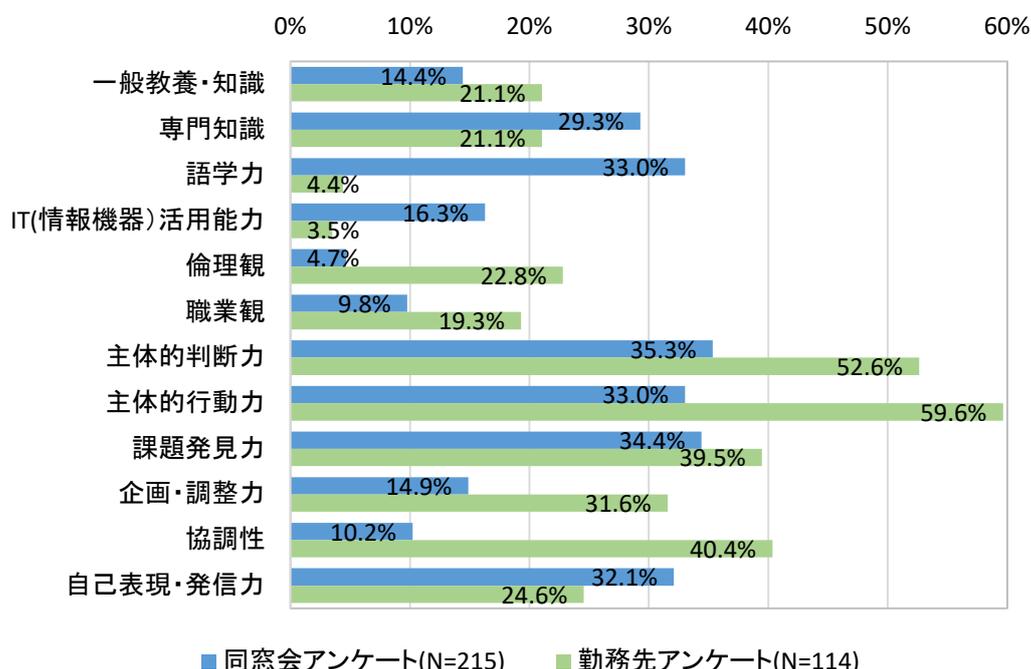
さらに、平成 27 年 12 月に、平成 16 年から平成 27 年に本学を卒業・修了した者の勤務先の上司を対象におこなった調査において、どのような能力・資質を重要と考えるか、今回と同様の項目でたずねていたため、比較をおこなった（図 10）。

今回の調査では 3 項目までの複数回答としていたが、勤務先を対象にしたアンケートでは、回答項目数に制限がなかったため、勤務先アンケートの方が回答率にばらつきがある。

勤務先を対象としたアンケートでは、今回の調査でも重要と回答した割合が多かった主体的判断力・主体的行動力、課題発見力に対して重要度が高く位置づけられていた。

極端に異なる結果が出たのは語学力と協調性で、語学力は卒業生から、協調性は企業から重要と捉えられていた。

図 10 重要だと考える能力・資質の比較



### 在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているもの

在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているものについて自由記述で尋ねたところ、137 件の回答があった。同窓会で配った影響もあるのか、具体的な授業名や教員名を挙げて振り返る回答が多かった。

印象に残った授業は講義から実習まで授業の形式は多様であり、科目の種類としても教養から専門まで幅広くあがっていた。

## 大学で再び学ぶことについて

今後また大学で学びたいと思うか尋ねたところ、46.4%の89名が学びたいと思うと答えた。

またその理由としては、「学ぶことが楽しい」というような純粋に学問に取り組むことを希望する意見が最も多かった。続いて「現在の仕事の他分野の専門性を高めたい。」といった仕事に役立てるという動機が多く、9件あった。また、「退職後も、何らかの仕事の続けていきたいため、その準備として。」や、「農学、バイオを学び、自分で農業してみたい。」といった、将来のキャリアを見据えた意見もあった。

学びたい内容については、学生時代の専門分野に関連するものを学びたいという意見が6件あった。それ以外では心理学（6件）や歴史（5件）といった回答が多かった。

この設問で「学びたいと思う」及び「どちらともいえない」と回答している者をあわせると86.5%であり、大学での学び直しには需要が見込まれるが、実際に行動に移す際に障壁になっているものが何なのかを調査する必要がある。

## 現在在籍している学生に対するサポート

現在在籍している学生に対して、本学が行うと良いと思われるサポートについて尋ねたところ、68件の回答があった。これを分類すると、「就職、社会進出」、「国際」、「IT」に関するサポートへの意見が多かった。各分類について詳細と一例を示す。

### 就職、社会進出

就職、社会進出に関するサポートへの意見が19件あった。就職活動へのサポート、OGとの交流、キャリア教育、社会人としてのマナーの指導などが挙げられていた。

OGとの交流の意見からは、在学生に自分の経験を話すことについて卒業生が肯定的に捉えていることがわかる。また、就職活動のサポートといっても、面接対策のような一時的な支援だけではなく、将来のキャリアを考える機会を与えるというような長い目で見た支援も重要だと捉えていることがわかった。

- ・卒業生の経験談を聞く機会（佐保会のネットワークを活用）
- ・社会人としての一般常識を、一応確認できる講座を少しだけもうけてほしい。
- ・何をしたいのかを見極めるためのサポート。外部から様々な人を招き、講演をする等。また、社会で人の意見をまとめるスキル等の知識を与える。

### 国際

国際教育に関する意見が14件あった。在学中に身に付けておくべき能力・資質の項目においても語学力は最も重要と回答している人が多かったため、必要と実感している卒業生が多いと考えられる。

- ・日本だけの視点ではなく、国際的な視点での教育をもっと取り入れた方がいいと思う。
- ・外国語教育を充実させてあげてください。これからは専攻に関わらず必要です。

### IT

IT関連のサポートに関する意見が5件あった。在学中に身に付けておくべき能力・資質の項目においてIT活用能力はあまり重視されていなかったが、「現在在籍している学生に対して」新たに必要な資質・能力として認識されている可能性がある。

- ・ITに対するリテラシーをあげ、一通り使いこなすことが出来るとよい。

## 大学に求めるもの

「今、あなたは奈良女子大学に何を求めますか？」という設問に対し、61件の回答があった。

これを分類すると、「運営」、「情報発信」、「教育」、「卒業生へのサポート」への意見が多かった。各分類について詳細と一例を示す。

### 運営

大学運営についての意見が15件あった。その中でも、大学の存続についての意見が6件、女子大学であることに言及する意見が5件あり、卒業生の中には女子大学としての存続を求めているものが少なからずいると考えられる。

- ・伝統あるこの大学の古き良き所を残しつつ、現代を生きる若者がおおいに学ぶことができる大学であってほしい。是非大学名を残してください。
- ・昨今の女子大が減っていることや、学生人数が少ないので、工夫をして存続してほしいと思います。

### 情報発信

大学の情報発信についての意見は10件あった。世間一般からの認知度やブランド力についての意見5件と、広報活動への意見5件にわけられた。

- ・奈良女子大の存在意義を社会にむけてアピールしてください。
- ・関東では知名度が低いので、もっと知らしめてほしい。
- ・新聞などの広告記事が目立って少ないように思います。何かお考えがあつてのことでしょうか。良質な広告（PR?）はもう少しされてもよいのではないのでしょうか。

### 教育

在学生への教育についての意見が9件あった。

- ・「日本」をしっかりと意識された教育は、今の時代より大切になってきていると思います。
- ・IT分野や教育学科の分野では、障害児教育への導入教育など。
- ・社会に出てリーダーシップを取れるような、クオリティの高い学生を育てて頂きたいです。

### 卒業生へのサポート

卒業生へのサポートについての意見が、18件あった。

なかでも、講座を開いて欲しい旨の意見が12件と最も多かった。これは、前の設問に「今後また、大学で学びたいと思いますか。」という設問があったことも原因していると思われる。内容としては、卒業生が全国にいるため、距離があっても受講できるシステムを希望するものや、転職、再就職に伴うもの、子育てについて、食についてと実生活に関わる内容を希望するものがあがった。他にも、卒業生向けの情報共有（3件）や、証明書類のネット申込（1件）があった。

- ・社会人講座などを都市部（大阪市内など）で開催されてはどうでしょう。
- ・講座の開設を希望します。地方から参加しやすくしてください。
- ・生涯教育のために、様々な講座があれば、転職、再就職に向けてもよい。
- ・遠方に住んでいるため、ホームページでの情報発信を今後も進めていってほしいと思います。

(白 紙)

# 奈良女子大学卒業生の振り返り調査

## (平成 29年 8月 実施)

奈良女子大学では、女子高等師範学校の頃から百有余年の間にここ「奈良」の地で培った「女性リーダーの育成」の実績を活かし、次世代へつなぐ人材の養成と研究の展開に取り組んでいます。

特に人材の養成においては、卒業生が大学での「学び」をどのような形で個々の礎とし、社会生活の中で生かしているかということが、本学の教育のあり方を検討するにあたり重要な観点であり、今後、継続的に調査していきたいと考えております。

今現在、本学に在籍する学生が有意義な学生生活を送るため、ご協力の程よろしくお願いいたします。

### ご記入上のお願い

- ・設問1-1、2～4まではあてはまる回答についている数字を○で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は、その数字を○で囲み、( )の中に具体的な内容をご記入ください。
- ・○は各質問ひとつずつ付していただくよう、お願いします。
- ・お答えになりにくい質問には無理にご回答いただかなくてもかまいません。
- ・ご回答は統計処理され、決して個人が特定できることはございません。
- ・ご回答いただきました調査票は、各テーブルにございますアンケート回収袋に入れていただきますようお願いいたします。
- ・調査に関するご質問は、下記連絡先までお問い合わせください。

#### 【本件担当】

奈良女子大学 学長調査戦略室

(事務担当)

総務・企画課大学改革推進係

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL 0742-20-3692

E-Mail [hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp](mailto:hyoka@jimu.nara-wu.ac.jp)

1) 本学で在籍した学科を教えてください。

[学部] (該当するものに○)

文学部

11. 社会学科 12. 国語国文学科 13. 英語・英米文学科  
14. 史学科 15. 地理学科 16. 教育学科

理学部

21. 数学科 22. 物理学科 23. 化学科 24. 生物学科

家政学部

31. 食物学科 32. 被服学科 33. 住居学科 34. 生活経営学科

2) 上記で答えていただいた奈良女子大学卒業直後の進路について教えてください。(該当するものに○)

### 2-1 進路

01. 民間企業勤務( 011. 事務 012. 営業 013. 企画 014. 販売 015. 管理 )  
02. 団体職員( 021. 事務系 022. 技術系 023. 研究職 )  
03. 自営業・家業 04. 幼稚園教諭・保育士 05. 小学校教諭 06. 中学・高校教諭  
07. 大学教員(研究分野: ) 08. 研究職(07以外)(研究分野: )  
09. 国家公務員(091. 事務系 092. 技術系 093. 研究職)  
10. 地方公務員(101. 事務系 102. 技術系 103. 研究職)  
-----  
11. 大学院進学( 大学 専攻) 12. 各種専門学校進学  
13. 大学への再入学 14. 留学 15. 専業主婦  
16. その他(具体的に )

《2-1で01~10を選ばれた方は、以下の2-2~2-4にもお答えください》

- 2-2 雇用形態 1. 正規 2. 非正規 3. その他 ( )  
2-3 雇用期間 1. 期限無し 2. 期限付き 3. その他 ( )  
2-4 最初に就職したところでの勤続年数 ( )年

3) 現在の状況について教えてください。(該当するものに○)

### 3-1 現在の状況

00. 変化無し  
01. 民間企業勤務( 011. 事務 012. 営業 013. 企画 014. 販売 015. 管理 )  
02. 団体職員( 021. 事務系 022. 技術系 023. 研究職 )  
03. 自営業・家業 04. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭 05. 小学校教諭 06. 中学・高校教諭  
07. 大学教員(研究分野: ) 08. 研究職(07以外)(研究分野: )  
09. 国家公務員(091. 事務系 092. 技術系 093. 研究職)  
10. 地方公務員(101. 事務系 102. 技術系 103. 研究職)  
-----  
11. 大学院在学( 大学 専攻) 12. 各種専門学校在学  
13. 大学への再入学 14. 留学中 15. 専業主婦  
16. その他(具体的に )

《3-1で1~10を選ばれた方は、以下の3-2~3-3にもお答えください》

- 3-2 雇用形態 1. 正規 2. 非正規 3. その他 ( )  
3-3 雇用期間 1. 期限無し 2. 期限付き 3. その他 ( )

- 4) 下記の**能力・資質**について、**大学で身についた**と思われるかどうか、お伺いします。それぞれについてあてはまるものひとつに○をつけてください。  
また、下記の能力・資質のうち、**在学時、身につける必要性を感じていなかったもの**について、右端の（ ）に○をつけてください。

	身についた	だいたい身についた	あまり身につかなかった	身につかなかった	必要性を感じなかった
1 一般教養・知識	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
2 専門知識	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
3 語学力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
4 IT (情報機器) 活用能力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
5 倫理観	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
6 職業観	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
7 主体的判断力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
8 主体的行動力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
9 課題発見力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
10 企画・調整力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
11 協調性	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )
12 自己表現・発信力	-4-----	3-----	2-----	1-----	( )

- 5) 4) の**能力・資質**のうち、**今振り返ると特に本学在学時に身につけておくべきだと思われるもの**を、重要と考える順に3つまで、**番号**でお答えください。

回答欄： 1. \_\_\_\_\_ 2. \_\_\_\_\_ 3. \_\_\_\_\_

- 6) 在学時に受けた授業・実験・実習、研究室・ゼミ等で印象に残っているものについてお答えください。

(「〇〇先生の△△の授業が面白かった」「〇〇のシステムがあって良かった」「□□が悪かった。もっと△△であれば良かったのに」等)

- 7) 今後また、大学で学びたいと思いますか。(該当するものに○) 思う場合は、その理由と、どのようなことを学びたいかお答えください。

1. 思う 2. どちらともいえない 3. 思わない

思う方はその理由と学びたいこと

8) 現在在籍している学生に対し、本学が行うと良いと思われるサポート等、ご意見がありましたらお聞かせください。

(「〇〇の教育を取り入れると良い」、「△△のシステムを充実させてあげて欲しい」等)

[ ]

9) 今、あなたは奈良女子大学に何を求めますか?

(「卒業生に対し、〇〇の講座を開いて欲しい」、「△△のサービス提供をして欲しい」等)

[ ]

ご協力ありがとうございました。